

春－１ はじめまして

１．活動の目的

- ①人間関係を作る第一歩として初対面の挨拶をする。お辞儀について知る。
- ②一緒に活動する日本語教室のメンバーに自己紹介する。印象に残る自己紹介を工夫する。
- ③自己開示して、自分を知ってもらう。

２．準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ・名札用の用紙（B5 サイズぐらい）
- ☆名札のサンプル
- ・大きい紙 2 枚
- ・サインペン
- ☆職業名の各国語訳
- ☆作文用紙（自己紹介を書くための用紙、人数分をコピー）
- ☆サイコロ

３．活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動 1

名札用の紙
名札サンプル
サインペン

- ・名札を作る。学習者の国の文字とかたかな（日本名はひらがな）両方で書く。書くのが難しい場合はボランティアが手伝う。

留 かたかなで書くのを手伝うときは、本人にどう呼んでほしいか聞く。
例：王偉→本人が「ワン」と言えば「ワン」、「オウ」と言えば「オウ」と書く。

- ・テキストに書いてあるパターンで一人一人挨拶する。作った名札を見せながら、日本人にもわかる発音で名前を言う。

活動 2

- ・導入文は、ボランティアが読んで聞かせてもいいし、学習者が二人ペアになって読んでもよい。

参 ボランティアが 2、3 人いるときは、一人が読み、あとのボランティアがその場面を「演じる」と楽しい。その際、右手を出したマリアさんがお辞儀を返されて困惑した様子や、夫のお母さんが畳に座ってお辞儀をする動作などを見せる。

- ・全員立って、お辞儀を練習する。頭だけ倒したり、背中を丸めたりしないよう言い、きれいなお辞儀は好印象を与えることを説明する。
- ・活動 1 の挨拶をもう一度して、言い終わったらお辞儀をするところまでやってみるとよい。

参 お辞儀には会釈（30 度ぐらい上体を傾げる）、普通のお辞儀（45 度）、丁寧なお辞儀（90 度）がある。学習者の生活場面やニーズに応じて、紹介する。

活動3

作文用紙

大きい紙

職業名の各国
語訳（必要で
あれば）

- ・李さんの自己紹介を読む。これは次の活動の「印象に残る自己紹介」の例として挙げてある。

留 ボランティアが李さんになって自己紹介のモデルを見せるときは、「李恬甜」を紙に書いて、「てんてん」が違う漢字であることを示す。

- ・自己紹介でどんなことを話せばいいか、全員で考える（ブレインストーミング）。ボランティアは出た項目を大きい紙に書く。
- ・話し合った中から（あるいはそれ以外でも）、3つぐらい話したい項目を選び、自己紹介を書く。その際、ありきたりの自己紹介ではなく、李恬甜さんの自己紹介のように、楽しく印象に残る自己紹介を考えるよう言う。
- ・書き終わったら、一人ずつ自己紹介してもらおう。ボランティアも自己紹介する。

留 自己紹介を書く時間は10分程度とする。

表記ミスや文法の間違ひの訂正はこの活動の目的ではないので、しないか、最小限にとどめる。

活動4

- ・学習者が書いた自己紹介の作文を集め、他のグループメンバーに再配布し、コメントを書いてもらう。書いたらまた本人に戻す。
- ・だれからどんなコメントをもらったか、発表する。

活動5

サイコロ

大きい紙

- ・サイコロを用意する。ボランティアは大きい紙にトピックを6つ書き、学習者に意味が分かるかどうか確認する。

トピック例 ※トピックは学習者に合わせて準備する。

1. 日本でびっくりしたこと
2. 最近、腹が立ったこと
3. 最近、うれしかったこと
4. 私の大失敗
5. 私が一番大切にしているもの
6. 100円あったら、何に使う？

- ・学習者はサイコロを振って出た番号のトピックについて話す。全員がサイコロを振ったあと、5分ぐらい考える時間をとる。そのあと、一人ずつ話す。何回かサイコロを振って繰り返す。

留 サイコロを振ってすぐに話すのは難しいので、考える時間をとること。ボランティアも‘サイコロトーク’に加わる。

春－2 お花見にでかけよう

1. 活動の目的

- ①季節の行事「お花見」について、日本人の考え方やさくらに対する思いを知る。
- ②万博記念公園へお花見に行く計画を立てる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆お花見の写真（ボランティア個人のお花見写真などもあるとよい。）
- ☆「全国お花見調査」結果
- ☆万博記念公園の園内マップ

3. 活動の手順

留：留意点

参：参考

発：発展的活動

活動1

お花見写真

- ・「さくら」といえば、春、入学、お祝いなど日本人が抱いているこの花ならではのイメージや思い入れがあることに気づいてもらう。また、学習者の国にも、日本のお花見のような季節の行事があるか聞いてみる。

参 日本の学校や会社は4月から始まる。雑誌の新連載やテレビの新番組などもこの時期で、さくらが咲く季節になると新しいことを始めたくなるムードがある。たとえば、NHKの語学講座のテキストが一番よく売れるのもこの時期だ。

- ・さくらの花は日本人にとっては特別な思い入れがあることに気づく。国花として定められているわけではないが、同等程度の愛され方をしている。そういうことから、身の回りにあるいろいろな「さくら」について改めて考えてみる。

全国お花見

調査結果

参 全国お花見調査（weathernews 発表 2013 年）

日本人のお花見についての意識調査がまとめられている。

参

- ・女の子の名前にも多く採用され、2000 年代に入ってから、常にトップテンにランキングされている。

- ・さくらソングといえば、最近のポップスでは毎年何曲かさくらをテーマにした歌が発売され人気が出ている。（福山雅治/コブクロ/森山直太郎など）学習者に知っている曲があるか聞いてみるとよい。

- ・さくら餅など季節になると登場する食べ物もある。また、各食品メーカーも季節限定のさくらを使った商品を出す。さくら茶は結納の席など祝い事にもふるまわれる縁起のいい特別なお茶。

- ・日本の紙幣や硬貨にもさくらが印刷されている。クイズにしているのは千円札。100 円コインの表の絵（1967 年以降採用）もさくら。実物を見せるとよい。

- ・「サクラサク」「サクラチル」は合否を知らせる例え。

活動2

お花見の写真

- ・来日してからのお花見の経験を聞いてみる。お花見といっても、さくらの木の下で宴会をするばかりでなく、近所の桜並木を散歩したり、いつも通っている道に咲いているさくらを眺めるというのでもよい。

活動3

万博記念公園 園内マップ

- ・さくらは咲き始めると1週間ほどで見ごろを迎え、すぐに散ってしまう。テレビのニュース（天気のコナー）やネットサービスなどでも情報が得られることを紹介。
- ・万博記念公園を含め、吹田のお花見の名所を知る活動をする。有名ではなくても、ご近所の穴場スポットなどを教え合うといいだろう。
- ・話し合いが進む中でお花見に行きたいという気分が高まってくればなおよい。

留 ボランティアの実際のお花見風景の写真を見ながら活動すれば、より身近に感じられて、活発な話し合いが期待できる。

参 諸外国では公園などの公共の場所でアルコールを飲むことが禁止されている場合もあるので、大人数で外でお酒を飲む姿に驚く学習者がいるかもしれない。日本でも最近、マナーの問題がないとは言えないが、おおむねルールを守ってお花見を楽しんでいる。

- ・お花見に行く事前準備の活動をする。行く時期の目安、持ち物などを考える。・お花見に持っていくものを相談する際は食べ物では、お弁当（その中身にふさわしいもの）、嗜好品のくだものやおかしなども考える。写真を準備しておくイメージしやすい。また、学習者にもピクニックの際に欠かせないものがあれば、聞いてみるとよいだろう。レジャーシートやおしぼりなど実物を準備して見せるとよりわかりやすくなる。
 - ・グループでのお花見では宴会芸などを披露して盛り上げたりすることもある。今回はみんなで楽しめるゲームなどを学習者に教わる活動をする。
- 例：各国版「じゃんけん」など

- ・万博公園の基本情報を見て、必要な情報を読み取る。

留 ここでは言葉の解説などは行わない。

発 日本語がよくできる学習者との活動では本物の園内マップを使って、そこから直接情報をとる活動も考えられる。

春ー3 春からスタート

1. 活動の目的

- ①日本の年中行事を通して季節と行事の楽しみ方を知る。
- ②学習者が大切にしている母国、家族、個人の年中行事について話す。
- ③自分の1年を展望する。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆私の1年カレンダー (コピーして各自に配布)

☆今年のカレンダー

☆国民の祝日(ボランティア用)

3. 活動の手順

発：発展的活動

留：留意点

参：参考

活動1

- ・学習者の国では、学校の新学期はいつか、新社会人の入社時期が決まっているか聞いてみる。
- ・日本人は四季を楽しむというが、学習者も自然の移り変わりや季節の行事を楽しんでいるか聞いてみる。
- ・四季があっていいと思うこと、ない方がいと思うことを聞いてみる。
- ・表の日本の四季はテキストに書いたように分けられるが、近年の気候変動により少しずつ変わっているし、北海道や沖縄では四季の感覚が違うことも話す。
- ・学習者が住んでいた所の季節や時期の分け方を書いてもらう。

活動2

- ・イラストを見て日本の行事の季節を知る。
春→ひな祭り(3月)、母の日(5月)。
夏→七夕(7月)、盆踊り(8月)。
秋→お月見(9月)、運動会(10月)。
冬→バレンタインデー(2月)、もちつき(12月)。
- ・日本古来の行事と、バレンタインデーや母の日のように外国から入ってきて、既に日本の行事になっている物があることを知る。
- ・学習者の国の行事を話してもらう。

活動3

私の1年
カレンダー

- ・資料の「私の1年カレンダー」を各自に渡し、記入のしかたを説明する。
 - ・日本の1年の欄には活動1と2にある行事を書き入れる。月は上記のとおり。私の1年の欄には、国の1年、家族の1年など、好きなものを加えて自分だけのカレンダーを作る。
- 例：家族旅行、国の正月、〇〇の運動会、等々。
- ・完成したら家に持ち帰りどこかに貼って、活用してもらうのも良い。

参 「私の1年カレンダー」の日本の1年欄には、自分の住んでいる地域に興味を持てるように大阪の行事を2つ入れてある。

活動4

今年の
カレンダー
国民の祝日

- ・実際に今年のカレンダーで、祝日を数える。
 - ・それぞれの祝日の読み方は「国民の祝日」を参考にする。
 - ・日本の祝日から3つ選びどんな日か紹介する。
 - ・その3つに似た祝日が学習者の国にあるか聞いてみる。
- 「天皇誕生日」は、海外によくある偉人、有名人の名前のついた祝日が連想できるよう、選んだ。

参 国民の祝日、国民の休日等については「国民の祝日」（内閣府ホームページより抜粋したリスト）ボランティア用を参考にする。これを学習者に見せて、逐一詳しく説明する必要は無いが、学習者のレベルや興味によっては臨機応変に対応する。

留 祝日に変更した場合は、最新のリストを用意する。

春－4 心のこもった贈り物

1. 活動の目的

- ①プレゼントをあげたりもらったりした経験を話したり聞いたりし、気持ちを共有する。
- ②プレゼントをあげる際の思いを表現する。相談しながら、感謝の気持ちを伝える計画を立てる。
- ③それぞれの文化における贈答の習慣について情報交換し、相互理解を深める。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆肩たたき券

☆のし紙、のし袋のサンプル

- ・メッセージカード (A4 の紙を 1 / 4 にカットして人数分作成する)

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

- ・プレゼントに関する体験を話す。必要なら「あげる」「もらう」「くれる」確認。
- ・もらったプレゼントだけでなく、あげたプレゼントについても話してもらってもよい。準備しているときの気持ちなども話題にできる。
- ・プレゼントは、物に限らず、手紙やカード、言葉、旅行、パーティーなども含めるとよい。
- ・サプライズでもらって嬉しかったプレゼントや、意味が分からず困ったプレゼント、習慣の違いによるびっくりなどの経験があれば、話す。また、プレゼントしたいが習慣がわからず困ったり失敗した経験があれば、話す。
例) どうしてもらったかわからず困惑した、不相応に高価で困った、返し方がわからない、プレゼントをあげた時その場で開けてくれなかった (または開けられた) など

肩たたき券

- 参** 導入文の「肩たたき券」について質問が出れば、子どもから親へのプレゼントとして日本では誰もが知っていることを紹介する。お金がかからないこと、肩をたたいてもらおうと気持ちがいいことなど。

活動2

メッセージ
カード

- ・潘さんの例を読む。潘さんが大家さんへのお礼の品をあげるにあたり、値段設定、どんなものが最適か、どうやって準備するか、どんなメッセージを添えるか、などをグループで話し合う。
- ・まず、予算を設定する。話し合ってから決める。決められないようならボランティアがその場で決めて提示してもよい。
- ・グループ全体で話し合ってもいいし、2～3 人に分かれて話し合ってから発表し合ってもよい。メッセージについても同様。ボランティアも加わるが、学習者の発話やアイデアを大事にするよう心掛ける。
- ・メッセージカードをデザインしてメッセージを書く。スタイルは自由だが日本語で書くこと。絵を描いてもいい。下書きをするのもいい。一人一枚それぞれにメッセージカードを書き、見せ合う。

活動3

のし紙
のし袋

発 よくできるグループでは、誰かが大家さん役になり、ほかのメンバーが、好きなものなどをインタビューしてプレゼントを決める、という設定にするのもよい。どんなことをインタビューするかグループで話し合っ決めて決めるようにする。

- ・日本や自国の贈答の社会的習慣について話す。ここではのしを付けて贈るような場合について記してある。学習者にのし紙・のし袋のサンプルを見せて紹介する。

留 テキストに記載されているお祝い等の説明に時間を費やさないう気をつける。

＊中元・歳暮：中元は6～7月、歳暮は11～12月に、お世話になった人に贈り物をする習慣。親族、会社同士、伝統芸能(お茶やお花)を習っている場合にはその先生、などに贈る。その時期になるとデパートなどに専門のコーナーが作られ、客で賑わう。

参 ほかに、いろいろな贈答習慣がある。例) 成人のお祝い、合格祝い、など

発 よくできる学習者には、のしの種類や書き方、店での頼み方なども紹介するとよい。

参 のしを付ける場合、メッセージカードはつけない。

参 お返しについて

- ・結婚祝い、出産祝いなど、お祝いに対するお返しは、だいたい半額くらいを目安にする。半返しという。
- ・結婚祝いや出産祝いのお返し＝内祝い お見舞いのお返し＝快気祝い とする。
- ・お祝いののし袋に入れるお金は新札の方がいい。

- ・あげてはいけないものについて、その理由を考えてみる。
- ・スーパーや花屋で売っている、小さい花束になっている小菊は、お供え用であることを伝える。プレゼントにしたり部屋に飾るには不適である。きれいに盛られたフルーツもお供え用である場合があるので注意。

春－5 ごみを減らそう

1. 活動の目的

- ①「もったいない」をキーワードに、エコ生活について考える。
- ②吹田市のごみの分別ルールを知る。
- ③電話で問い合わせができる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ・A4サイズの紙5枚
- ・サインペン
- ☆ごみの分け方12種類分別のポスター
- ☆吹田市 市内のごみ収集日一覧
- ☆ごみ分別クイズ用品物カード（2セット）
- ・A4サイズの紙2枚

3. 活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動1

- ・まず、「もったいない」の意味を知っているか、聞いてみる。知っている学習者がいたら、「もったいない」の例を言ってもらおうとよい。
- ・次に、林さんの話を読んで「もったいない」の意味を確認する。

参 ケニア出身のワンガリ・マータイさんが提唱した「MOTTAINAI」は「KARAOKE」と同じように世界共通語になっており、環境問題を考える重要な概念になっている。

- ・もったいないと思うものを各自テキストに書いてもらう。

留 テキストには考えやすいように5つの項目を示してあるが、厳密に分ける必要はない。また、書いてもらうのは考える時間を取るのが目的なので文章で書かなくても「紙のおてふき」などメモ形式でよい。学習者にもそのように言う。

A4の紙5枚
サインペン

- ・テキストに書いた「もったいないもの」を発表してもらう。ボランティアはそれを5つの項目に分けて紙に書く。
- ・書かれたものの中からグループで話し合っ、もったいないものベスト5を選ぶ。
- ・もったいないものベスト5を改善するアイデアをみんなで考える。
- ・出てきたアイデアの中から自分が実行しようと思うことを3つテキストに書く。

留 時間の余裕があれば、ベスト5以外の事柄についても話し合うとよい。

活動 2

市内のごみ収集日一覧

ごみ分別クイズ

ごみ分別

品物カード

A4 の紙 2 枚

ごみの分け方
12 種類分別の
ポスター

活動 3

- ・ごみの収集日を聞く前に、吹田のごみ分別の方法とそれぞれのごみの種類を知っているか確認する。テキストの①～⑤の言い方を覚えてもらうようにする。

留

- ・ごみの分別収集の方法は市町村によって異なる。学習者の中に吹田市以外に住んでいる学習者がいたら、その地域の分別収集について話してもらう。
- ・自分の地域のごみ収集日を知らない学習者がいたら、ボランティアが「市内のごみ収集日一覧」を見て教え、テキストに書いてもらう。

- ・まず、グループでクイズをし、そのあとテキストに答えを書く。

手順は以下の通り

- ①グループを 2 組に分け、それぞれに品物カードと A 4 サイズの紙 1 枚を配る。

紙は右図のように線を引いてごみの種類を書く。

①燃焼ごみ	②資源ごみ
③大型複雑ごみ	④小型複雑ごみ ⑤有害危険ごみ

- ②それぞれのグループで品物カードがどの種類のごみか相談し、①の紙の上に置いていく。

- ③ 2 組の結果を比べる。異なるところがあれば、「ごみの分け方 12 種類分別のポスター」を見て、訂正する。

- ④テキストに答えを書く。

- a. (②) b. (③) c. (①) d. (①) e. (④) f. (②) g. (③) h. (②)
i. (⑤) j. (④) k. (①) l. (⑤)

- ・「市役所の人」はボランティアがやる。
- ・「布団」を他のものに置き変えて練習する。

留

市役所の部署名（事業課）は変わることがあるので事前に確認すること

発

よくできる学習者の場合は、ごみを出す日（日時、曜日）を学習者に尋ねさせたり、ボランティアが出すときの注意を言って聞き取らせたりするとよい。

注意事項の例

不用品と張り紙して出してください。（大型複雑ごみ）

ひもで十字に束ねてください。（雑誌など）

紙に包んで出してください。（有害危険ごみ）

参

絵本「もったいないばあさん」（真珠まりこ著）

楽しくわかりやすい内容なので、活動のまとめとして、あるいは活動の導入として使える。

春－6 吹田いいとこ

1. 活動の目的

- ①吹田のいいところ、魅力を知って、自分の住んでいる地域に親しみと愛着を持つ。
- ②地域の知り合いや同じ国の人とのネットワークについて話す。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆日本・大阪府の地図
- ☆吹田観光リーフレット
- ☆太陽の塔の写真
- ☆太陽の塔・よくある質問と答え（ボランティア用）
- ・ふせん、サインペン、大きい紙

3. 活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動1

日本・大阪府
の地図

- ・地図を見る前に吹田市は大阪府の北、真ん中、南のどの辺にあるか聞いてみる。
大阪府の「市」の中で（大阪市以外で）広い方だと思うか、近隣の市の名前を知っているかなど聞いてみるのもよい。
- ・次にテキストの地図を見て吹田市に印をつけてもらう。
資料の「日本・大阪府」の地図を見て、実際の位置を確認する。
- ・円グラフを見てテキストの質問に答えてもらったあと、正解を示し、100人に1人は多いと思うか少ないと思うか聞く。学習者が下の①～③の国籍以外の場合は、よく韓国や中国の人を見るか聞いたりする。
[答え]
外国人人口比率：100人に1人（約1.38%）
国籍別人口（人数が多い順に）：1位・中国 2位・韓国 3位・台湾
(いずれも平成30年度調査による)

活動2

吹田観光
リーフレット

- ・キムさんの話を読んで、学習者もそう思うかどうか（自然が多い、等々）聞いてみる。
- ・さらに学習者が吹田へ初めて来たとき、また現在の印象を聞く。学習者から話が出にくければ、自然環境、交通、店の数や人の印象などについて具体的に聞くと話しやすいだろう。
例：道路はどうですか。広いと思いましたか。
- ・吹田観光リーフレットを見ながら、生活圈や知っている場所等について話す。
- ・日常生活で会話をしたり挨拶をする知り合いがいるかどうか聞く。
- ・同じ国の友達や知り合いが何人ぐらいいるか、近くに住んでいるか聞く。
どこでどうやって知り合ったか、よく会ったり、連絡したりしているか等。

発 ここで、学習者同士の情報交換の時間をとってよいだろう。学習者の中にまだ、地域でネットワークが持っていないと思われる人がいたら、出会いの場としてSIFAでの教室やイベントがあることを紹介する。

活動3

ふせん
サインペン
大きい紙

- ・「吹田生活のアドバイスや、吹田の魅力を、新たに来た人に話す」という設定であることを説明する。
 - ・伝えたいことを各自ふせん1枚に1件ずつ書き出して、机の上の大きい紙に張り付ける。
 - ・ある程度出そろったら、書いた本人に内容をひとつずつ説明してもらう。
 - ・ボランティアが、内容ごとにグループに仕分けする。
- 例：生活、休みの過ごし方、仕事 等々。

発 すべての学習者から情報が集まったら、それを整理していくつか選び出す。新たに模造紙等にかき直して貼り出してもよい。

活動4

太陽の塔写真
太陽の塔・よくある質問と答え
(ボランティア用)

- ・「太陽の塔」の写真を見せて目的を説明する。
「これは吹田市にあります。ジョン君のように日本人の友達に説明するための練習をします。」
 - ・写真を見て、ボランティアに質問しながら情報を取り、テキストにメモを残す。ボランティアは「太陽の塔・よくある質問と答え(ボランティア用)」を参考にし、学習者の質問に答える。
 - ・わかった情報を理解して、日本語で説明する練習をする。
- 学習者1人が案内役(ジョン)、もう1人が質問する役(太郎)になり、ロールプレイをする。

参 マンホールのふたのデザインは各自治体の個性が出ているが、吹田市は中央に「太陽の塔」、その周りに市民の木「くすのき」、さらに外側に市民の花「さつき」がデザインされている。

「マンホール蓋学会」のサイトでは、全国各地の色々な楽しいマンホールの蓋が見られる。豊中市は「マチカネワニ」箕面市は「箕面の滝」のデザイン。

留 吹田市民でない学習者もいるので、その場合は彼らの住んでいる所や、過去に住んでいた所の話をしてもらうと良い。

春－7 電車に乗って

1. 活動の目的

- ①吹田の公共交通機関について知り、それを利用して行動範囲を広げる。
- ②駅構内の表示や乗り物を利用する際のルールを理解し、安心して利用できるようにする。
- ③交通機関の便利なサービスを知り、楽しくお得に乗り物を利用する。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆吹田市街地図
- ☆駅のアナウンス資料
- ☆路線図
- ☆割引チケット（サンプル）

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動 1

路線図

- ・公共交通機関を利用しているか聞いてみる。国にいたときはどんな方法で移動していたかも聞いて、来日後との違いや共通点を話し合ってみる。
例：日本へ来てからはタクシーを使わなくなった。など
- ・学習者自身は電車に乗っているとき何をしているかも聞いてみる。
- ・日本独特のマナーやルールについて何か気づきがないか聞いてみる。また、時刻表通りの運行や整列乗車を例に日本と自国の乗車マナーの違いなども話してもらうとよい。
例：日本の電車の座席シートはやわらかくて、座り心地がいい。
待ち合わせに駅の改札が使われる など

活動 2

吹田市街地図
路線図

- ・近畿周辺の観光地へのアクセスを知る。吹田からのお出かけはどこへ行くにも便利なことを確認する。神戸、京都方面には JR と阪急線（阪神・京阪など）等、複数あり、行き先、切符の値段等で乗る電車を選ぶ場合もある。
- ・よく出かけている人には電車を利用して出かけた経験を話してもらう。お出かけ先でのエピソードなども話してもらうとよい。
- ・梅田からは複数のアクセスがあるため、万が一普段利用している電車が止まったとしても迂回ルートで帰宅することが可能であることについて話す。



吹田から各地への所要時間は以下の通り

JR 吹田→大阪 9 分 阪急吹田→梅田 17 分 地下鉄江坂→梅田 10 分
JR 吹田→京都 35 分 阪急吹田→京都河原町 58 分
JR 吹田→三ノ宮 45 分 阪急吹田→神戸三宮 52 分

活動3

- ・駅にある表示の意味やサービスについて話す。まず、絵を見れば分かるものについて、どんなものか説明してもらう。
- ・次に、漢字で書かれた表示の意味を確認しながら、意味が分かっていたか、自国にもあるかなど話してもらう。
- ・表示がわからなくて困ったことがないか、失敗したことがないかなど経験を話してもらうのもよい。

駅の表示の写真

- ・整列乗車がしやすいようにホームには乗車位置が示されている。
- ・鉄道各駅には駅番号制が導入されていて、文字が読めなくても分かりやすいよう工夫されている。江坂駅は M11（御堂筋の M 出発駅の 11）、山田駅 16/HK94（大阪モノレール/阪急）など。知らない学習者がいたら、情報提供する。

関連表現

特急・快速

{ 阪急：普通 準急 快速 快速急行 通勤特急 特急 快速特急 }
{ JR：普通 快速 新快速 }

アナウンス資料

- ・駅のアナウンスが聞き取れるか練習してみる。ここでは、4つのアナウンスを読み上げ、次にどう行動すべきかを答えてもらう。
①降車時のドアの案内 ②乗り場案内 ③事故による不通の案内
④ダイヤの乱れ
アナウンスと解答は資料を参照。

聴き取りがよくできる場合は、アナウンス①、②を続けて読んでもよい。

活動4

路線図

割引チケット

- ・吹田の交通アクセスの良さを利用して、お得にお出かけする方法を知る。
- ・通各社の割引サービスや格安チケットの情報などについて話す。

割引切符の情報は交通各社のホームページで調べることができる。

春－8 図書館へ行こう

1. 活動の目的

- ①図書館に親しみを持つ。
- ②図書館で本を借りるだけでなく何ができるか知る。
- ③実際に図書館に行って、自分の知りたいことを調べる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆吹田市図書館案内の翻訳版（英・中・韓）→必要に応じて渡す。

☆図書館活動シート（コピーして各自に渡す）

3. 活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動1

- ・図書館の上手な利用方法を知る。
- ・日本の図書館について知っているか、利用したことがあるか聞く。
- ・自分の国ではどのように利用していたかも聞く。

活動2

図書館活動
シート

- ・SIFAと同じビル内3階の「千里図書館」へ行くことを伝える。
- ・図書館での活動の前に、図書館で何をしたいか、何が知りたいか、各自ひとつ決めて、シートに書く。
- 例：（テキストの吹き出し以外に）
外国語の本がある？ インターネットが使える？ 何時間いても大丈夫？
CDやDVDも借りることができる？ どうやって借りる？ 寄贈はできる？等々。
- ・思いつかない学習者には、興味があることや生活のことを聞いて、そこから何か決められるよう助ける。

活動3

- ・「千里図書館」へ一緒に行く。
- ・カウンターで「ようこそ図書館へ」等の資料をもらう。
- ・活動終了時刻を決めて、「〇時△分に×××に集合」と伝えて、それぞれ活動開始する。（活動時間の目安：約30～40分）
- ・図書館内で各自、自分の決めたことを探す情報収集活動をする。
- ・わからない時は、係の人への質問するようアドバイスする。その場合、できるだけ自分で会話ができるよう、見守る。どうしても必要なときだけ、助けに入る。
- ・入口近くのたくさんの情報チラシや壁にあるイベントのお知らせなどもあることを、知らせる。

留 学習者のレベルにもよるが、自ら行動できるよう、アドバイスして見守る。

活動4

- ・教室に戻り、「図書館活動シート」の残り部分を記入してもらう。文で書けない学習者には、単語だけでも良いので書いてもらう。
- ・各自、発表する。体験や感想を人に伝える。
- ・質問をしあったり、皆の情報を共有する。

- ・上手くできなかったことについては、どうすれば良かったか等、皆で考える。

留 「図書館活動シート」は、母語で書いても良い。できれば日本語も書くようにアドバイスする。例えば単語だけでも良い。これはあくまでも本人の活動メモなので、ここでは添削しない。

- ・「ようこそ図書館へ」を見て下記の3点は必ず知らせる。

P.3 貸出期間/冊数/点数

P.8 「こんなサービスもしています」

P.11 近くの図書館を知る

必要に応じて翻訳版を渡す。その他、学習者のレベルに合わせて冊子を活用し、情報を取る。

発 図書館に希望する面白いアイデアがあれば、実際に提案しても良いかもしれない。

コラム

- ・身近で便利な吹田市立図書館を利用しよう！
 - ・大阪市立中央図書館も紹介。蔵書も最大規模だが、外国語の蔵書も多い。吹田からは少し遠いが、そんな図書館があることを知らせる。ホームページには「英語・中国語・韓国語・やさしいにほんご」の案内がある。
- 最寄駅：地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」下車
南千里から西長堀 電車で約50分 運賃は¥450（2018年10月現在）

春－9 ぼくは小学3年生

1. 活動の目的

- ①日本の子ども達の学校生活を知る。
- ②日本の学校教育システムを知る。
- ③自分の学校生活を語る。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆写真 (小学校の様子)

☆時間割

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

写真 (小学校の様子)

- ・小学校の様子の写真を見ながら、気づいたことや感想、自国との違いを話してもらう。
- ・会話に出てくる持ち物はどんなものか、何に使うと思うか、聞いてみる。持ち物イラストを見ながら、話し合ってもよい。
- ・さらに次のような質問をしてみる。
 - *あなたが通っていた小学校は、休むとき、どうやって連絡しましたか。
 - (参 吹田市の小学校は、基本的に、連絡帳に書いて友達に持って行ってもらう。)
 - *小学校へ行くかばんは決まっていましたか。
 - *小学校は何時に始まりますか。小学校までどのくらいかかりましたか。

留 まず学習者に話させて、必要なら「日本は…」と情報を伝える。

留 説明に終始せず、学習者の発話を引き出すよう心掛ける。

活動2

時間割

- ・時間割から、気づいたことや感想、自国との違いを話してもらう。テキストにある設問以外にも、できるだけ多くの気づきを引き出す。休み時間、掃除、給食などにも気づかせる。
- ・日本では、基本的に、ひとりの担任が全ての教科を教えることも特色の一つ。(算数・音楽などサポートの先生がつく場合もある。)学習者の国ではどうか、聞いてみる。

参 大阪府では、小学校における1クラスの子どもの人数は、1・2年生は35人以下、3～6年生は40人以下となっている。(2014年現在)

参 テキストの時間割はルビをつけて加工したものである。実際の教材としての時間割を見せて話してもよい。

参 道徳：心の教育。社会における善悪について学ぶ。

総合学習：地域・福祉・環境などについて総合的に学ぶ時間。

活動3

- ・学校行事について話す。感想や、自国の学校行事について、話してもらう。
- ・子どもがいる学習者で、学校行事を体験している場合は、紹介してもらう。

活動 4

参 ほかに、避難訓練、身体測定、など。

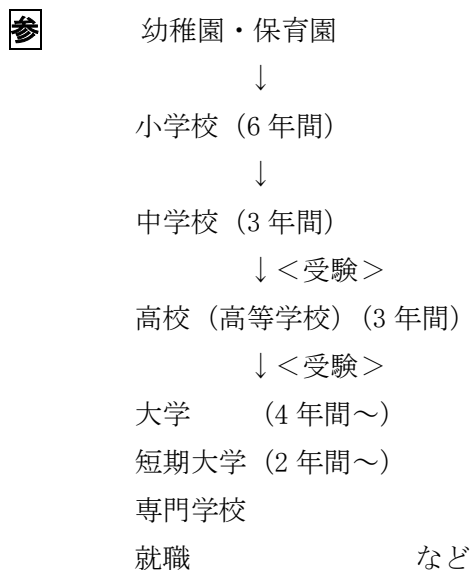
留 ひとつひとつの学校行事の説明に終始しないよう心掛け、学習者からの感想や質問を引き出す。

- ・学習者の子ども時代の放課後の生活について聞いてみる。現代と比較して話すのもよい。
- ・子ども達の放課後の生活について、日本の子ども達に対する意見・感想などを話してもらう。テキストの吹き出しの内容などを参考にする。

留 教育に対する考え方は個々に異なるので、学習者の意見を否定しない。また、プライベートな話をしない学習者には、無理強いしない。

発 以下の活動は、活動中どこに差し入れても、あるいは最後に行ってもよい。質問が出たり、よくできる学習者には；

日本の学校制度について紹介し、自国のことを話してもらう。吹田市立の小中学校は3学期制であることや、夏休みなどの長期休暇についても話すとよい。



参 日本では、入学式は4月、卒業式は3月。（SIFAの各語学教室も同様）

参 小学校・中学校は義務教育であるため、公立の学校に入る場合は試験はないが、高校へ行くには公立であっても受験しなければならない。

参 外国籍の子どもについては、小中学校教育は義務ではないが、希望する場合には日本国籍の子どもと同様の教育を受けることができる。これについて、特に質問がなければ学習者への説明は不要。

夏－１ 夏を涼しく

１．活動の目的

- ①日本の、特に大阪の夏の暑さを乗り切るためのいろいろな工夫を知る。
- ②熱中症対策を知り、夏を健康に過ごす。
- ③実際に涼しくなる方法、感覚的に涼しく感じる方法、等を知る。

２．準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆熱中症・節電クイズ（人数分コピーする）

３．活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動１

熱中症・節電
クイズ

クイズ・回答

- ・日本に来て初めての夏をどう過ごしたかを、聞く。
- ・自分の国、あるいは今まで住んだことがあるところと比べての感想を聞く。また、その時の暑さ対策を話してもらう。
- ・熱中症や節電についても知っているか聞く。
- ・熱中症・節電クイズをする。

熱中症クイズ

- Q1. × 「部屋の中にじっとしていても、室温や湿度が高いために熱中症になることがある。」
- Q2. ○ 「できるだけ直射日光をさけるようにする。」
- Q3. × 「のどがかわいていなくても、こまめに水分を取る。スポーツドリンクなど塩分や糖分を含む飲み物が良い。」
- Q4. ○ 「熱中症に限らず、早く冷やす時は脇の下、太もものつけねを冷やす。」
＊ここでは、「脇の下」「太もものつけね」等、体の部分を示しながら説明する。

節電クイズ

- Q1. ○ 「地域によって違うが、日本全体で見ると、夏は冷房、冬は暖房を使うことによって、電気がたくさん使われる。」
- Q2. ○ 「夏は午後から、外が暑くなって、部屋の温度が高くなるとみんなエアコンを使う。」
- Q3. × 「使用する電気量の約半分はエアコンといわれるくらい多く使われる。」
- Q4. × 「詰め込みすぎると多くの電力が使われる。逆に冷凍庫は、中身が詰まっているほうが冷却効果が高まり、節電になる。」

活動２

使って涼しく！

- ・日本で涼しく過ごす道具等知っているものがあるか、まず聞いてみる。
- ・テキストにあるものと比べる。
- ・実際の使い方を話し合う。
- ・学習者が体験して、良かったものをあげてもらい、その理由を聞く。

参 暑さ対策のグッズは、ボランティアの持ち物を活用すると良い。

例：扇子 日傘 日焼け防止手袋 等

活動3

見て聞いて涼しく！

- ・ここにあげた「風鈴」「怪談話」は、あくまでも日本人の感性なので、それを知っているか、学習者ならどう思うか聞く。
- ・学習者自身の、または自国でも同様の「涼」の感じ方があるか、聞いてみる。

参 風鈴、怪談話、金魚、夏の和菓子、水の流れる音、など日本人は夏らしいと感じるが、国が違えば感覚も違うので、これらを涼しいと感じないこともある。その違いを話し合うのも興味深い。

活動4

食べて涼しく！

- ・学習者が思いつきやすいように3つのタイプに分けて聞く。
 - ① 実際に体を冷やす食べ物
 - ② 食感や食べ心地が良く、暑いときでも食べやすい物
 - ③ 暑くて辛く発汗を促しクールダウンできる食べ物
- ・他にどんな食べ物があるか聞く。

活動5

行って涼しく！

- ・家の中で暑さを我慢するのではなく、涼しいところに行くというアイデアについて話す。
- ・ポイントは①お金をかけない②簡単に行ける、ということで考える。
- ・屋外なら山の中の緑の多いところ、例えば「箕面の滝」、また屋内ならデパート、ショッピングセンター、図書館、等、一緒に考えてみる。
- ・学習者の国でも、涼しいところに出かけていたか聞く。

コラム・打ち水

- ・日本の江戸時代からの「打ち水」という習慣を紹介する。
- ・朝夕に家の庭や前の道路にまいて、温度をさげる。
- ・最近では、国交省や環境省などがサポートして「打ち水大作戦」といったキャンペーンも開催している。都市部のビル街のヒートアイランド現象を解消するために、日時を決めて大々的に打ち水をやっている。

留 自宅がマンションやアパート等の集合住宅の場合、バルコニーで水を流すことは禁止されている所もあるので、むやみにバルコニーでの打ち水を勧めないように気をつける。

夏－2 台風が来た！

1. 活動の目的

- ①自然災害にはどんなものがあるか知り、災害への心構えを持つ。
- ②気象庁や市から発信される台風や大雨の情報を理解する。
- ③台風、大雨に備える。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆防災ハンドブック（吹田市）日本語、英語、中国語、韓国語版
- ☆「どうしますか」シート／避難文字カード
- ☆「避難勧告等の伝達内容」岐阜県防災課

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

- ・イラストを見ながら、自然災害の語彙を確認する。テキストの語彙以外にも、学習者から出てきたらつけ加える。
- ・「災害に遭った経験」は、学習者からあまり話が出なければ、大きな被害に限らず、台風で乗る飛行機が欠航になったとか、雪道で転んで骨折したとかとか、何らかの影響を受けた経験を話してもらおうとよい。日本だけでなく、自国での経験でもよい。
- ・今住んでいる地域で、大雨や台風時に災害が起きやすい場所、危険な場所がないか聞いてみる。また、ボランティアが知っていることがあれば話す（川があふれたことがある、がけ崩れが起きたなど）。

活動2

- ・[注意報と警報]を読んで、「注意報」と「警報」があること、注意報→警報→特別警報の順に危険度が高いことを説明する。
- ・休校（休講）の説明の文の正しい答えに○をつけてもらう。正答は c. 暴風警報
- ・雨や台風など天気に関する情報を何で得ているか、休校などの（会社では早退になることがある）判断基準となる警報や注意報などの情報をどうやって得ているか、聞いてみる。
- ・[台風や大雨で危険があるときのお知らせ]を読む。
- ・言葉を覚えたかどうか、適切な行動がとれるかどうかを簡単な2つのゲームで確認する。方法は次の通り。

「どうしますか」シート

●聞いてわかるかどうかの確認

- ①学習者全員に見えるように「どうしますか」シートを貼る（置く）。
 - ②ボランティアが下の「お知らせ」を読み、学習者はテキストを見ないで「どうしますか」シートの番号を言う。
- ◇お知らせ1 こちらは吹田市災害対策本部です。5時5分、吹田市に大雨の特別警報が発表されました。→②

◇お知らせ2 こちらは吹田市災害対策本部です。ただ今のサイレンは吹田市全域に対して避難指示を発表したことをお知らせするサイレンです。→③

◇お知らせ3 こちらは吹田市です。ただ今、7時20分に〇〇地区に対して避難準備情報を発表します。避難の準備を始めてください。→①

留 「特別警報」のとき、外に出るとかえって危険なこともあるので、その時の状況をみて一番安全と思われる方法を判断するよう伝える。

留 この聞き取り練習は勧告や指示だけが聞き取ればいい。お知らせの文を全部説明する必要はない。

発 よくできる学習者には、生のもとの原稿を読んで聞く練習をするとよい。

●「文字情報」がわかるかどうかの確認。

①ボランティアは「避難文字カード」を見せて「テレビにこの字がでました。どうしますか。」

②学習者は「どうしますか」シートの番号を言う。

留 この練習は文字を見てわかることが目的。文字を読ませる必要はない。

・避難所の場所を知っているか、またいざというとき助けてもらえる近所の人はいるか、聞いてみる。普段から近所の人と言葉を交わすよう、助言する。

・台風への備えをグループで話し合う。テキストのイラストは停電（懐中電灯やろうそくの準備）、溝や排水溝の掃除を表している。防災ハンドブック 16 ページのイラストを活用する。

・台風や大雨の時の注意点をまずグループで話し合う。テキストのイラストが何を意味していると思うか、聞くとよい。「どちらがいい？」を考えてもらう。

・次に、学習者から出てこなかった注意点があれば、ボランティアが説明し、学習者に気づいてもらう。防災ハンドブックの 24 ページを見て、みんなで注意点を確認する。

参 イラストの意味 (参考: 大阪市鶴見区役所「大阪に台風が来たとき」)

風が強いとき: 物が飛んでくるかもしれないので頭を守る

窓にテープを貼る、雨戸をしめる、カーテンを閉めて窓から
離れる

雨が強いとき: 高いところへ逃げる

大雨の中を逃げるとき: 車より徒歩で

水の中を歩くときは脱げないよう紐のある靴で

荷物は両手が使えるようにリュックで

棒で足元を確認しながら

夏－3 工場見学に行こう

1. 活動の目的

- ①吹田近辺にある工場を紹介し、見学に行く計画を立てる。
- ②見学に行く手続きと、予約に必要な表現を学ぶ。
- ③待ち合わせの方法とマナーを知る。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆アサヒビール吹田工場見学パンフレット
- ☆近隣工場の見学パンフレット（ラーメン博物館・明治大阪工場）
- ☆吹田観光リーフレット（鉄道路線図）

3. 活動の手順 **発**：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動1

- ・会話を読む。まずボランティアが読んで聞かせ、学習者が二人ペアになって読んでみてもよい。
- ・アサヒビール吹田工場を知っているか、工場見学できることを知っているか聞く。
- ・学習者の国、またはどこかで工場見学をしたことがあるか聞く。
食品や飲み物以外の工場もあるので、聞く。
試食・試飲・お土産等についても話す。

留 ビールが飲めない人や苦手な人もいるので、ビールだけを強調せず、歴史的な美しい建築物の一部が残っていて見られること、試飲はソフトドリンクもあることを伝える。

参 アサヒビール吹田工場は、回転ずしの生みの親！？
「元禄産業（株）の創設者 故・白石義明氏がビール工場の製造ラインのベルトコンベアにヒントを得て開発した「旋回式食事台」を使って寿司を出したのが、回転寿司の始まりです。」（アサヒビール HP から引用）

活動2

アサヒビール工場パンフレット

- ・アサヒビール吹田工場の工場見学パンフレットから見学のために必要な情報を探し出して、書いてみる。
- ・2人ずつ組ませて、ペアの作業にしても良い。

活動3

- ・予約の電話のかけ方を練習する。
- ・グループ内で、役を決めてペアで練習する。
- ・会話の中の日時、希望人数、名前を変えて練習する。

活動4

吹田観光リーフ
レット

近隣工場の見学
パンフレット

留 エリー役（予約をする人）はテキストを見ないで言えるようになるまで練習する。予約係役はテキストを読んでやる。

- ・ 集合方法が決まった時に、自分がどう行動するかを聞く。
- ・ 経路の選択肢がある場合、どちらを選ぶか、その理由を聞く。
わからなければ、一緒に調べる。
- ・ 電車賃も調べる。
- ・ 過去の待ち合わせの経験談を聞く。

参 阪急電車、JR 京都線、阪急バスの路線図があれば皆で調べられる。

発 吹田近辺の工場見学の詳細を、パンフレットを見て、見学に行くシミュレーションを試してみる。

実際に学習者達に計画を立てて実行するのはとても良い経験になる。

例：池田・インスタントラーメン記念博物館

高槻・(株)明治大阪工場

大阪島本町・サントリー山崎蒸留所

夏ー４ ラジオ体操にチャレンジ

＊DVD を使用し実際に体を動かすユニットです。**活動 1 ～ 3**とも、教室全体で行ってください。
人数が多い場合でも、少なくとも**活動 3**は教室全体で行ってください。

1. 活動の目的

- ①健康的な日常生活を送るにはどうすればいいか考える。
- ②体操する際に必要な体を動かす表現を知る。
- ③ラジオ体操を習得し、地域の活動への参加を促す。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆ストレッチ
- ☆運動のことば
- ☆出席カード
- ☆ラジオ体操 DVD
- ・モニター

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動 1

DVD＋モニター

- ・読んで大体の意味を取る。
- ・デスクワーク、パソコン作業、車依存、外出しない日の運動不足など、日常の運動不足による体の不調について話し合う。
- ・林さんへのアドバイス＝日常的にできる軽い運動やストレッチ
- 留** 運動以外のアドバイスも一旦受け入れる。
- ・ストレッチの方法を紹介

ストレッチ
(必要なら)

活動 2

DVD＋モニター
出席カード

- ・読む。佐々木さんはどんな人か考えさせる(＝小学生の子どもを持つお母さん)。
夏休みの子どものラジオ体操についてボランティアが紹介する。
- ・「ラジオ体操」とは何か、想像させて少し話し合ってから、DVD を見る（第 1 のみ）。感想を話し合う。
- ・ラジオやテレビで毎日放送していること。子どもは学校で。大人は職場で(一部の職場)。お年寄り公園で。日本人なら誰でも知っていることなどを伝える。
- ・学習者の国にも同様の体操があるか。どんな体操か。

活動 3

運動のことば
(必要なら)

- ・言葉の説明、練習。体を軽く動かしながら楽しく行う。
- ・ここにはない言葉で、学習者が知りたい言葉があれば必要に応じて補足する。
- ・ジェスチャーゲームのような形式で、出題者・回答者を交代しながら行い、動作の日本語の定着を目指す。ボランティアまたは学習者が動作を見せる→動作の日本語を言う(動詞)、また、その逆。体の名称(名詞)も同様。

- ・机を寄せてスペースを確保する。
- ・再度ラジオ体操を見て、前出の動作の日本語を確認。(ラジオの通りの日本語でなくても OK)
- ・日本語を確認しながら、実際にラジオ体操の順番通りに体を動かす。(第 1 のみ)
ここでは DVD なし
- ・DVD に合わせてラジオ体操を行う。

留 学習者の様子を見て、1～2 回程度。しつこくならないように。ボランティアも一緒に行うこと。

- ・時間があれば、歌も歌ってみる。(DVD に映像あり。) ラジオ体操の歌も、日本人誰もが知っている。歌詞を紙に書きとめながらも、内容の説明は不要。

留 座ってすることもできる。特に必要な場合以外は立つて行う。無理しない。嫌がる学習者もいるかもしれない。その場合は無理強いしない。

発 夏休みの朝に行っている子どものラジオ体操や、近隣の地域自治体などで日々行っているラジオ体操に、一緒に参加できると尚よい。

参 ラジオ体操 DVD 出演者の皆さんは、関西大学千里山キャンパスにて活動中(2014.10 現在)。

夏ー5 吹田へようこそ

1. 活動の目的

- ①相手を思いながら自分の生活圏を案内するプランを作る。
- ②相手に喜んでもらう、自分の気持ちを伝えるにはどうすれば良いか考える。
- ③情報（地図、時刻表、路線図）を集めて、計画を立てる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆吹田市街地図

☆吹田観光リーフレット（鉄道の路線図）

・ふせん

3. 活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動1

吹田市街地図

吹田観光

リーフレット

ふせん

- ・エリーが書き出したメモから、学習者それぞれの考えで行き先を選ぶ。
- ・その際に、どうやって行くかを地図や路線図を見て順番を考える。
- ・7ヶ所（5、7は実在しない）の内からいくつ選ぶかは、学習者に任せる。
- ・それぞれのオススメ計画ができたなら、どうしてその計画にしたか話す。
理由等については、ここでは簡単にすませる。
(活動3で、しっかり話す。)

- ・目的地の漢字をもとに、地図を読む練習をする。地図に慣れる。
- ・自分の住んでいる所が、地図上でどこにあるか確認する。
(学習者の中には、知らない人も多い。)
- ・地図では大体の位置関係がわかる程度で良い。

参 鉄道の所要時間については大体の時間で良い。
スマホ等で検索できる学習者がいれば、やってみる。(強制はしない。)

活動2

- ・学習者がエリーさんのような経験をしたことがあるか、その時に、良かったこと、楽しかったこと、美味しかったものを思い出して話してもらう。
- ・思いがけないこと、例えば失敗談が出てきたら、それも参考になるので詳しく聞いてみる。
- ・吹田での経験のない人には想定の話でも良いし、他の場所を案内した経験があればそれでも良い。

活動3

吹田市街地図

吹田観光リー

フレット

ふせん

- ・まず具体的に「誰」を案内するか決めて、その人に喜んでもらえるプランを作る。
- ・吹田市内だけで難しければ、その近隣でも構わない。
- ・活動1のエリーさんのプランと同じ要領で、ふせんに書いて貼り、回る順番を決める。

活動4

参 連れて行きたい所が思いつかないようなら、
「誰を連れて行くの?」「どこか見てほしいところはない?」
「日本の食べ物で、一緒に食べたいものはない?」
「その人は買い物が好き?」
等と聞いて、アイデアを引き出すようアドバイスする。

- ・各自、誰を案内するか、どうしてそのプランになったか説明してもらう。
- ・ここで大事なのは、
「誰のためのプランか」
「どうしてそこへ連れて行きたいか」
「どうしてそのようなプランにしたか」
なので、それらを詳しく聞く。
- ・グループ内で発表して、それぞれ質問をしたり、感想を言い合う。

発 時間や余裕があれば、

- ① 交通費を調べる、
- ② 経路に選択肢があれば、交通費や時間で比較してみる。
- ③ 違う人を想定して、また別のプランを考える。

夏－6 居酒屋で飲みニケーション

1. 活動の目的

- ①飲んだり食べたりしながらのコミュニケーションの場としての、日本の居酒屋文化を知る。
- ②日本人と一緒に居酒屋での飲食を楽しめるよう、注文のし方を知る。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆居酒屋の写真

☆居酒屋のメニュー

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

留 全体的な留意点・日本の居酒屋＝お酒を飲みながらおしゃべりして、打ち解け、ストレス解消する所。コミュニケーションの場。これを導き出してください。

- 1 「飲みニケーション」は何と何をくっつけた言葉か、学習者に聞く。
- 2 「飲む」＋「コミュニケーション」と書いて示し、「飲みニケーション」の意味を聞いてみる。
- 3 この場合の「飲む」は何を飲むことか聞く。→お酒を飲みながら楽しくおしゃべりして親しくなることを表す言葉であることを知ってもらう。

発 学習者の中に日本人の夫を持つ妻がいたら、日本のサラリーマンは飲む機会が多いことや、帰宅が遅いことなど、サラリーマン事情を話題にして話すのも良い。

参 日本人がお酒を飲みに行くのはどんな時か。お酒を飲みたい時、プラス、疲れた時。悩みがある時。誰かの悩みを聞く時。

仕事でうまくいった時、いかなかった時。打ち上げや歓送迎会。忘年会、新年会。

帰宅前の切り替え(サラリーマン)。など。

留 「あなたはどうか。」お酒を飲まない学習者には、お酒なしでも、友達などと食べたり飲んだりするのはどんな時か聞く。

参 「居酒屋」というと男性やお酒のイメージを持っていて、積極的に参加しない学習者がいるかもしれないが、その場合は、最近の居酒屋はひとりでも入れるし、女性客も多いこと、お酒が苦手でも楽しめること、最近は「ファミリー居酒屋」なるものもあることなどを説明するとよい。

参 お酒に求めるものは？（複数回答）アサヒグループホールディングス 2014年調査

外飲み時に「お酒に求めるもの」は何？

1 人との会話や関係の円滑化（コミュニケーション）	66.8%
2 気分をリラックスする	35.6%
3 気分の高揚（気持ちを楽しくする）	33.3%
4 ストレス・緊張の緩和・解消	30.8%
5 食欲を増進する（食事がおいしく食べられる）	23.4%

活動2

写真

メニュー

- ・居酒屋の写真を見せて、気がついたことを話してもらったり、学習者から質問してもらったりする。

留 写真を見せてボランティアが説明するのではなく、学習者の発話を引き出すための質問などをする。

参 レストランと居酒屋の違いの例

居酒屋は：

- ・壁にメニューが貼ってある。メニューにはない、有料のお通し(突出し)がある場合が多い。最近ではお通しについて明記したり、お通しを廃止したりしている店もある。

- ・お酒や料理を好きなだけ頼める。追加注文が何回でもできるので、少しずつ注文することができる。相談して決めることが多く、料理を分け合って(取り皿にとって)食べる。

- ・レストランは食事を楽しむ。居酒屋はお酒やおしゃべりを楽しむ。 など

(居酒屋会話その1)

- ・まずボランティアが店員になって練習する。ボランティアが二人いる場合は、先にモデルを見せてもよい。学習者ができそうなら店員役もさせて二人ペアで練習する。

- ・生3つ＝生ビールを3つください。(注文する時の言い方)

参 「生3つ」グラスの飲み物は普通1杯2杯と数えるが、注文時は1つ2つと言う。瓶ビールの場合は1本、2本…グラス3つ、などと言って注文する。

参 「とりあえず」始めから全部注文しないで、飲み物だけ、または飲み物と料理を少しだけ、先に注文する。後で追加注文をする。

(居酒屋会話その2)

- ・まずテキストの通りに食べたいものや飲みたいもの、食べられないものを伝える練習をする。時間を十分に与え、すらすら言えるようになるまで練習する。

- ・豆腐サラダにします (相談して決める時の言い方)

- ・次に居酒屋のメニューを見ながら実際に注文するつもりで練習をする。最初にメニューを見る時間を取る。この時お酒や料理の情報も適宜与え、学習者が本当に食べたいもの、飲みたいものを選べるようにする。

- ・ボランティアも参加してロールプレイをする。

- ・二つのグループに分かれて、最後に発表するのもよい。

参 紙コップなどでグラスの代用をするなど、小道具を用意できれば盛り上がる。

発 よく話せる学習者の場合は、「これは何と読むんですか。」「冷奴って、何ですか。」「これはどんな料理ですか。」「焼き鳥は、何本ですか。」など、メニューの漢字の読み方を聞いたり、料理の説明を求めたりする課題を与え、会話を発展させる。

発 余裕があれば、注文後の乾杯の会話もやってみる。内容や話し方をそれらしく演じて、楽しく会話できるようにボランティアがリードする。

発 更に、一緒に居酒屋へ行く計画を立てて実現すると尚良い。

活動3

メニュー

夏ー7 スーパーで買い物

1. 活動の目的

- ①スーパーで上手に買い物する。
- ②スーパーの値段表示や食品表示がわかる。
- ③レジで、店員に聞かれることに答えられる。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ・スーパーのチラシ 「広告の品」「お買い得品」などの文字があると尚よい。
- ・消費期限や賞味期限、成分表などが書かれた食品のパッケージ

※上記2つはなくても活動できるが、実物があると生活につながった活動ができる。

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

- ・ジョイさんの話を読んで、国ではどんなところで買い物していたか聞いてみる。
- ・日本で、スーパーではなく、市場や商店街の店で食料品を買っている学習者がいたら、その理由を聞いてみる。

参 文中の「市場」は多くの店が集まって対面販売する、いわゆる‘マーケット’のこと。

活動2

スーパーの
チラシ

- ・値引きを表すいろいろな表示を紹介し、覚えてもらう。特に「〇割引」という表示は、〇割の値段だと思える学習者がいるかもしれないので、「いくらですか」で確認する。
- ・価格は「本体価格」と「税込価格」の両方が書かれている場合があり、実際に払うのは「税込価格」であることも言うておく。

発 活動2は「値引きの表示を知って、安く買う」というのが活動の目的だが、野菜売り場の場面なので、学習者の興味があれば、売っている野菜について話を広げてよい。

国では見たことがない野菜や、よく見るけれど買ったことがない野菜、また、売り方（量り売りをあまりしない、きれいに並べられているなど）の違いなどが話題にできる。

活動3

留 スーパーで日本語でのコミュニケーションが必要な場面として魚売り場を取り上げた。日本は魚が豊富で新鮮な魚が手に入ること、下処理もしてくれることを紹介し、学習者が魚を食べてみようと思えるような活動にする。

- ・魚が好きかどうか、よく魚を食べるか、聞いてみる。
- ・日本のスーパーの魚売り場について、意見や感想を聞く。
- ・スーパーで魚の下処理をしてもらえることを知っているか、聞いてみる。

活動4

消費期限や賞味期限が書かれた食品のパッケージ

留 下処理の言い方はテキスト以外にもあると思うが、ここではまずテキストの言い方で練習する。その後で他の言い方、例えばボランティア自身が使っている言い方を紹介するとよい。

参 消費期限： その年月日までは「安全に食べられる」という期限を示している。主に、弁当やおかずなど、傷みやすい食品につけられる。
賞味期限： その年月日までは「品質が保たれ、おいしく、安全に食べられる」という期限を示している。消費期限に比べ、傷みにくい食品につけられる。日付を過ぎると、すぐに食べられなくなる、というわけではないが、早いうちに食べたほうがよい。

消費期限も賞味期限も「袋や容器を開けないで」「書かれた保存方法を守って保存している」場合の、安全やおいしさを約束したもの。

発 学習者の中に宗教上の理由で豚肉を食べない人がいる場合は、原材料に豚肉由来のものが入っていないかを店の人に尋ねる言い方を紹介する。

活動5

- ・レジで店員に何か言われてわからなかった経験がないか、聞いてみる。
- ・テキストに載っているレジ系の質問に答える練習をする。

夏－8 私の好きなもの

1. 活動の目的

- ①今熱中していることや来日当初に好きだったことなどについて話す。
- ②来日後に体験したことから、日々の生活の楽しみ方を話し合う。
- ③好みを聞き合いお互いの理解を深める。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆調味料の写真

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

- ・テキストのリサさんの話を読んで「ハマっている」とはどういうことか理解してもらうようにする。
- ・まずパンの話題から食べ物でハマっているものについて話し合う。
- ・来日をきっかけに「ハマった」ことがないか聞いてみる。来日当初と時間が経過した後とではいろいろ変化があるかもしれない。手芸、スポーツ、習い事など、あらゆるカテゴリーの嗜好や趣味について話してもらうとよい。
- ・学習者の意外な特技やメンバー同士の共通の趣味が見つかり交流が深まることが期待できる。

活動2

調味料の写真

- ・調味料を話題にして好みの味について話す。国でよく使われている調味料や料理には欠かせない味などがないか聞いてみる。日本で買えるか、もし買えないなら今はどうしているのかなど聞いてみる。
- ・日本の調味料で好きになったものや、よく使うものがあれば聞いてみる。またどんな料理に使っているか聞いてみる。意外な使い方が発見できるかもしれない。
- ・卵料理はどの国でもよく食べられているが、学習者はどんな味付けで食べるのか聞いてみる。それぞれの家庭や個人によって様々な好み聞けるだろう。

活動3

- ・2つの選択肢からどちらがいいか好みを聞き合う。どうしてそっちがいいか理由も聞いて各自のこだわりを聞き出す。あまり意見が出ないようなら、聞き方を工夫する。
- 例
- スーパー/コンビニ：雨が降っている日は？・300円で昼ご飯を買いたい時は？
- ベッド/ふとん：一人暮らしの場合は？
- 海/山：家族と1日過ごすなら？・恋人と過ごすなら？
- 都会/田舎：80才になってから住むなら？・都会のアパートか田舎の一軒家か？
- 犬/猫：小型犬か太った猫を選ぶとしたら？・家の中で飼うなら？

活動4

参 その他の例：

外食か自宅での食事か/トイレは和式か洋式か/夏場の入浴はシャワーか湯船にかかるか/女性の学習者ならスカートかパンツスタイルか/朝型か夜型かなど

- テキストの絵を参考に日本発の人気のものについて話す。好きになったものやどうしてもなじめないものなど学習者の意見を聞いてみる。
- テキストの例以外にも来日を機に気に入っていることがないか聞いてみる。
- 国の友達に紹介したいことを聞く。設備や物に限らず、接客の対応や、近所づきあいなど日本と自国を比較して、日本のいい点や、国との違いで戸惑ったという話をしてもよい。

夏－9 私の選択

1. 活動の目的

- ①過去の人生について、どのように選択し、決断してきたかを振り返る。
- ②決断するまでの過程を知り、学習者自身や他のメンバーの考え方を理解し合う。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

なし

3. 活動の手順

発：発展的活動

留：留意点

参：参考

活動1

- ・ここでは「選ぶ→進む」作業をする。
- ・簡単な性格診断チャートをする。
- ・始める前に各項目の意味を確認し、やり方を説明する。
 - ①自分の性格を簡単に診断できる。
 - ②各項目に、「はい」（実線）「いいえ」（点線）のどちらかを選び、次に進む。
 - ③各項目の文章を理解しているか確認する。
 - ④考えすぎないで、直感で次に進む。
- ・全員同時にやっても良いし、問題を読みあげながら1人ずつやってもおもしろい。学習者のレベルによって、やり方を工夫する。
- ・結果とその過程について聞く。
- ・直感で決められるもの、そうでないものがあるか、話してもらう。
- ・途中で「はい・いいえ」を迷ったものがあれば、違う方を選択したらどうなるか考えるのも面白い。
- ・ゲーム感覚のチャートなので、皆で楽しくやってみる。

留 このチャートは本格的な心理学的な性格診断ではないので、結果について当たっているかどうかを真剣に議論しない。
個人の性格について、深く踏み込まないようにする。

活動2

- ・今までの人生で一番大きな選択・決断は何か話す。
- ・進学、仕事、結婚、以外にも何かないか聞いてみる。
- ・思い浮かばないようなら、ボランティアが自分のことや、学習者が知らない誰かのことを例に話しても良い。
例：留学した。都会から田舎に引っ越した。新しい習い事を始めた。等々。
- ・ひとりで決められることはどんなことか、相談者が必要なのはどんなことか、聞いてみる。
- ・決断の時、どんなことを考えたか、迷ったか等、話してもらう。

留 この活動は学習者自身の話になるので、くれぐれもプライバシーに気をつける。特に進学、結婚の話題には気をつける。また人生相談にならないようにする。自分のことを話したくない学習者には、誰か知り合いのこと等を話してもらっても良い。

留 若い学習者がいれば、彼らなりの決断を聞きだし、きちんと受け止める。

コラム

流行語から定着した「たれば」という日本語について知る。

「たれば」は過去の出来事や未来の仮定の話をするものである。そんなムダな話をしないで、自分を信じて進もう。

活動3

- ・ 毎日の生活は小さな選択の積み重ねということを知る。
- ・ 朝起きてから教室に来るまでの色々な選択を聞く。

テキスト以外の例：

(雨の予報に) 傘を持っていく？ (駅の) 階段かエスカレーターか？

- ・ 何を、どんな時に決められないか、また、それぞれの考え方やこだわりを話しよう。それによって、自分自身の選択・決断の傾向を知る。

例) カフェに行く→おいしい？/サービスは？/落ち着ける？

読みたい本→図書館で借りる？/本屋で買う？

秋－１ 旅行に行きたい

１．活動の目的

- ①日本での旅行の楽しさやスタイルを知る。
- ②温泉やお土産の習慣について知る。

２．準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆高野山

☆日本の世界遺産

☆「旅の土産、必ず買いますか？」（朝日新聞 be between から）

- ・秋の旅行のパンフレット（必要に応じてボランティアが旅行社の最新の物を用意してください。）

３．活動の手順

参：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動１

高野山

- ・外国人観光客にも人気の高野山の紅葉や、宿坊について話す。
- ・高野山は熊野古道と同じく、世界遺産の「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる。

参 高野山にはホテルはなく、宿泊施設を兼ねた寺院「宿坊」がある。
宿坊自慢の精進料理を楽しみ、翌朝は本堂での早朝勤行を体験できる。
資料の写真：大塔→仏様が安置されている塔。奥之院→高野山を開いた弘法大師が亡くなられた所。大門→高野山の入口に立つ門。

秋の旅行の
パンフレット

- ・学習者の日本での旅行体験を聞く。どこへ行ったか、どうだったか、話してもらう。日本の旅行は季節によっても印象が変わるので、行った時期（季節）も話題にするとよい。
- ・良かったことだけでなく、旅行の習慣の違いで戸惑ったことなども話してもらう。
- ・日本の旅が未経験の学習者がいれば、他の学習者から、日本に限らず今まで行った旅行について話してもらってもいい。

参 日本の旅行については、出来れば最新の秋の旅行のパンフレットを用意すると良い。学習者達は、旅行をもっと身近に感じられて、興味もわくだろう。

留 旅行社のパンフレットを使用する場合、写真がたくさん載っているものが良い。詳細の説明に走らないで、学習者が旅行に興味を持てるように話す。上級者の場合は、必要に応じて、パンフレットの見方のポイント等を説明しても良い。

活動２

日本の
世界遺産

- ・**活動１**の高野山の流れで、世界遺産について話す。
- ・日本の世界遺産のリストからいくつか例をあげて、聞く。
- ・学習者の国の世界遺産についても聞く。既に登録されている所、なったらいいなと思う所など聞いてみる。国に世界遺産がない学習者がいる場合は、ずっと残したいと思うところやものを話してもらう。

留 アジア諸国にも世界遺産は多くあるが、台湾等、無い国もある。

参 日本の世界遺産 22 件、全世界で世界遺産は 1092 件。
(いずれも 2018 年 10 月現在)

活動 3

- ・旅のスタイルを聞く。
- ・その時の条件や気分によっても変わるかもしれないので、色々なケースを想定して話してもらう。例：仕事に疲れた時は・・・/ゴールデンウィークには・・・等。
- ・ここにあげた選択肢の他に、自分の旅のスタイルやこだわりがあれば、話してもらう。

活動 4

- ・クイズの正解は 3,000 [2013 年度データ：3,085 ヶ所] 堂々の世界一。

参 温泉宿泊客の延べ人数は、日本の総人口とほぼ同じ数→約 1 億 2,500 万人
日本人の温泉好きがうかがえる。

- ・なぜ日本人は温泉好きか話す。例：リラックスできる。効果効能がある。
- ・日本の温泉での体験、感想を聞く。
- ・まだ行ったことのない人には、理由を聞く。
外国人は「裸になって他人と一緒にのお風呂」に抵抗がある人も多いが、旅館によっては便利な家族風呂(貸切)があるので、情報として伝える。
また足湯もあるので、気軽に温泉気分を味わえる。
- ・何か所か行ったことがある学習者には、どの温泉がお気に入りか、そしてその理由を聞く。
- ・もし自国にも温泉があれば、国での温泉の入り方や楽しみ方を、皆に紹介してもらう。

参 国によっては「温泉は病気療養のためにつかる、飲む(飲泉)」そして「水着を着用」とされている。(特にヨーロッパに多い。)

参 日本には温泉好きな動物がいる。
野生のニホンザル(長野県渋温泉その他)カピバラ(全国のいくつかの動物園)
ニホンザルの入浴風景は外国人観光客に大人気になっている。

コラム

- ・温泉に皆が気持ち良く入るために、お湯を汚さないようにするマナーを知る。

活動 5

旅の土産、必ず
買いますか？

- ・日本のお土産をあげたりもらったりしたことがあるか聞く。
- ・資料を見ながら、日本人の旅のお土産事情について話す。
- ・日本から国に帰る時、家族や友達にどんなお土産を買うか、話してもらう。
- ・イラストの吹き出しのように、お土産を買う理由はいろいろある。

- 1) 自分が買いたい
- 2) 付き合いや職場の慣例で買わなければならない
- 3) 買ってきくと頼まれる

秋ー2 うちのごはん、おいしい！

1. 活動の目的

- ①日本人の持っている食べ物による季節感を知り、それを楽しむ。
- ②家庭料理の話を通して、参加者それぞれの国の食文化や食生活の習慣を知る。

2. 準備するもの （☆は教材ファイルにあるもの）

☆食べ物カード

☆旬の食べ物早見表

- ・食材や料理の名前など、適宜手持ちの辞書などを使ってください。

3. 活動の手順 **留**：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

食べ物カード
旬の食べ物早見
表

留 健康上・宗教上等の理由で飲食に制約のある学習者がいる場合は、配慮が必要。

- ・まず、タイトルの「食欲の秋」について話す。

参 「食欲の秋」について：夏の暑さが過ぎて涼しくなる秋は食欲が増すこと、また、収穫の季節であることから、秋は食べ物がおいしい季節である。

- ・学習者の国にも同じような言葉があるかどうか聞いてみる。

- ・まず、テキストのイラストについていつの季節の野菜・果物かを考える。次に、「食べ物カード」を配って、学習者に春夏秋冬にわけてもらう。

- ・「旬の食べ物早見表」を見て確認し、さらに季節の食べ物について話す。

- ・「旬」という言葉を紹介する。

留 同じ食べ物でも、品種や地域によって旬が違ふことがある。「旬の食べ物早見表」はひとつの参考にしてほしい。

- ・「決まった時期に決まって食べる」「一年中出回っているがこの時期がいちばんおいしい」食べ物と月（または季節）を書く。もっとたくさん書いても構わない。

- ・行事食（おせち料理、恵方巻き、…など、日本の行事食や学習者の国の行事食）についても話してもよい。

活動2

- ・それぞれのイラストが、元はどここの国の料理だと思うか聞いてみる。

参 日本では、いろいろな国の料理を日本人向けまたはそれぞれの家庭風にアレンジして取り入れられていて、家庭料理であってもバラエティ豊かであることが多い。ここでは、「日本では、レストランのみならず、家庭においても、いろいろな国の料理を日常作ったり食べたりしている」ことに気づいて話ができればよい。

- ・学習者の国の家庭料理事情を話してもらう。日本のように外国の料理も作ったり食べたりするかどうか聞いてみる。どんな料理を作ったり食べたりするか聞く。

活動3

- ・ここでは「家庭料理」としているが、料理しない場合（買って食べる、店で食べるなど）もあるだろう。それもその人（家庭）の食文化のひとつとして話ができればよい。どんな時、どうしてそうするか話し合ってもよい。

- ・「おふくろの味」学習者の国にも同じような言い方があるか聞く。
- ・学習者・ボランティアの、「おふくろの味」について話す。学習者のレベルに合わせて、さらに、どんな料理（食べ物）か、いつ食べていたものか、その思い出、などを話す。

発 良くできる学習者のグループでは、おすすめ料理をグループの仲間に紹介する活動をする。

発表する内容を具体的に示す。大きい紙に書いて示すとわかりやすい。

＜発表の内容の例＞

料理の名前、どんな時にどこで誰と食べるか、材料、その料理の思い出 など。

可能であればレシピなど（かなりできる学習者の場合）。

料理が難しい場合、食べ物でもよい。季節・国・食事やおやつかなど問わない。

聞き役の学習者にはどんどん質問してもらうようにする。

秋ー3 スポーツを楽しもう

1. 活動の目的

- ①日本、自国、仲間の国のスポーツ事情について、話したり聞いたりする。
- ②吹田にJリーグサッカーチーム「ガンバ大阪」があることを知る。
- ③日本の伝統的なスポーツである相撲について知る。紙相撲を楽しむ。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆ガンバ大阪チラシ(参考資料)

☆紙相撲の作り方マニュアル

- ・厚紙、はさみ、箱、カラーペン（紙相撲用）

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

- ・「見るスポーツ」について話す。
- ・どんなスポーツを見るか聞いてみる。あまり見ないという学習者には、普段見るスポーツだけでなく、オリンピックで好きな種目や一年に一度のマラソン大会、障がい者のスポーツ大会、子どもの頃よく見ていたスポーツなどに話を広げると良い。
- ・ガンバ大阪を知らない学習者には吹田のサッカーチームであることを言う。テキスト右ページの「知っていますか」を読んでもよい。
- ・サッカーや野球など日本で人気のあるスポーツや有名な選手について話す。潘さんの話にあるような応援スタイルについても話すと良い。
- ・国で、テレビや競技場で観戦できるスポーツは何か、その中で人気のあるスポーツは何か、また、有名なスポーツ選手について、話す。

参 日本人の人気スポーツランキング 2014 中央調査社 調べ

◇好きなプロスポーツ

1位：野球 2位：サッカー 3位：大相撲 4位：ゴルフ 5位：テニス

◇最も好きなスポーツ選手

1位：浅田真央 2位：イチロー 3位：田中将大 4位：羽生結弦

5位：本田圭祐

留 スポーツに関心がなく、自分のことが話せない学習者もいるかもしれない。国や地域のことを聞くこともできる。

活動2

- ・「するスポーツ」について話す。
- ・今しているスポーツや、子ども～高校生の頃にしたスポーツ、体育の時間や運動会など学校教育の場で行ったスポーツなどについて話し合う。試合に勝った、優勝した、などの経験も聞いてみると良い。
- ・「今しているスポーツ」は、ジムや水泳に通う、のほか、地域で行われているヨガやラジオ体操や、歩く、ジョギングなどの軽いスポーツも含める。

- ・「してみたいスポーツ」国でしていて、吹田でもしたいけれどできないスポーツも聞いてみる。どうしたらできるか考える。

参 市内に5つの市民体育館がある。利用するにはグループでの予約が必要。市民プールは2つある。

活動3

- ・「相撲」実際に見たことがなくてもテレビで見たことがあるか聞く。
- ・相撲のルールを簡単に確認する。土俵から出る、または手やお尻をついたら負け。ルールがわかりやすく、すぐ勝負がつくので、言葉がわからなくても時間がなくても楽しめることを伝えと良い。

参 春場所は大阪で行われる。なんば界限では生力士に会えるかも！

- ・自国の伝統的スポーツについて、可能な範囲で話す。
- ・スポーツを説明するのは難しいので、「何人ですか」「どこですか」「道具を使うか」「季節が関係するか」「勝敗の決まり方」「大人か子どもか」などの質問をして発話を促す。

活動4

紙相撲の作り方マニュアル、材料

- ・古くからある遊びには、〇〇相撲、という名のついたものが多い。
- ・画用紙、サインペン、はさみを用いて、一緒に紙相撲を作り、力士風の名前(〇〇山、など、易しいものでいいので学習者に考えてもらう)をつけて、実際に遊ぶ。使う道具などの名前や、きります、おります、たたきます、などの言葉も学習する。
- ・ボランティアも参加する。交代で、行司をたてる。
- ・トーナメント方式で優勝者を決める。面白く楽しく行うこと。
- ・学習者が、触れ合うことを嫌がらなければ、腕相撲や指相撲を行ってもよい。

発 いずれかのスポーツ観戦に、一緒に行く企画を立ててもいい。

秋ー4 その時、どうする？

1. 活動の目的

- ①地震による災害の知識を深め、防災意識を高める。
- ②地震が起きる前に必要な準備と、起きた後の行動について考える。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆DVD『地震！その時どうする？』
 - ・モニター
- ☆震度階級表
- ☆持ち出し品カード (3 セットあり)
- ☆作業シート (2～3 人のグループ活動。各グループに 1 枚コピー)
- ☆準備しておきたいもののリスト (人数分コピー)
- ☆防災カード (人数分+希望者には家族分にも配布できるよう多めに。)
- ☆防災ハンドブック (吹田市発行) 日本語、英語、中国語、韓国語版

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動 1

DVD

震度階級表

- ・地震について各自が持っている知識を思いつくままに出し合ってから、DVD (チャプター2 の 1:30～2:20) で揺れの様子を観る。感想などを話し合う。
- ・「震度」「マグニチュード」について各自が持っている知識を出し合ってから、違いを説明。震度階級表を見せて説明。
 - 発** 必要であれば「震源」「津波」等も説明。
 - 参** 防災センター (阿倍野) に、地震の揺れを体験できる施設がある。

活動 2

持ち出し品カード、作業シート

- ・「備えあれば憂いなし」意味について話す。また学習者の国にも同様の言葉があるかどうか聞く。日本人なら誰でも知っているのでは、覚えてもらえると良い。
- ・2～3 人のグループを作る。各グループに持ち出し品カード 1 セットと作業シート 1 枚を配る。
- ・グループで話し合っ、カードの中から必要が高いと思うものを 5 つ選んで、優先順位の高いものから作業シートに並べる。カード以外に必要だと思うものがあれば、書いてもいい (例・新聞紙、など)。
- ・作業シートに並べた物の名前を書き入れる。名前がわからなければ教える。
- ・グループごとに、選んだ持ち出し品と、それを何に使うか、どうしてそれを選んだか (優先順位が高いと考えたか) を発表する

留 正否判定はしない。(薬、赤ちゃん用ミルクなど、人によって異なる)

発 用意が可能であれば、5 キロ程の米や水などを入れたリュックを用意して、実際に背負う体験も面白い。

準備しておきたいもののリスト
(防災ハンドブック)

- ・「準備しておきたいもの」リスト配布。一緒に見て、足りないものはないか考えたりして、再確認する。持ち出し品と備蓄品の違いを説明。

参 防災ハンドブック p. 22～にも記載がある。吹田市の HP からも見られる。

- ・ 防災ハンドブックの地図（p. 32～）を見て、避難場所を確認する。吹田市民でない場合、自分の避難場所を帰宅してから確認するよう伝え、ここではほかの学習者と一緒に活動する。
- ・ 避難地（一時避難する所）と避難所（家に帰れない時に当面の間生活する所）の違いを説明する。
- ・ いざというときに助けてくれる、頼れる日本人が近くにいるかどうか聞いてみる。そういう人がいないという学習者がいたら、近所の人と顔見知りになるにはどうしたらいいか、全員で考えてみる。
- ・ 助けを求める言い方：「助けて！」「助けてください」「どこへ行ったらいいですか」などを紹介し、練習してみる。
- ・ 家族と決めておくべきこと：家族とこのような相談したことがあるか聞く。他に相談しておくべきものがあるか考える。災害伝言ダイヤルを知っているか聞く。一人暮らしの場合は、誰に連絡すべきか考える。

活動3

- ・ ○×クイズ：○、×の意味を確認。国によっては○＝×、✓などが使われる。
（○）テーブルの下に入ります。＝体を守る。日本人は学校などで防災訓練を行っていることを紹介する。（防災訓練について本編右下に記載あり。）
（○）料理していたら、火を消します。＝火事を起こさない。
（○）ドアや窓を開けます。・揺れが大きい場合は、大きい揺れがおさまってから、火を消す、ドアを開ける。＝出口を確保する。
（○）テレビやラジオで、津波が来るかどうか確かめます。・テレビ・ラジオ・携帯電話の警報の見方を知らせる。
（×）靴を履いていない時、そのまま急いで逃げます。
（×）階段は危ないので、エレベーターを使って逃げます。
（×）車で逃げます。
（×）建物や塀のそばを通過して逃げます。・倒壊に注意
（○）逃げる時、かばんなどで頭を守ります。・落下物に注意
- ・ すべての項目について、その理由を一緒に考える。

活動4

防災カード

- ・ 防災カードを書く手助けをする。希望者に家族分の防災カードを配布する。

留 （全体的な留意点）恐怖心をあおらないこと。

震度3～5なら、避難の必要はまずないこと、揺れは必ずおさまるものであること、また、地震はいつ起こるかわからないが、気にしすぎないで日常生活を送ることを伝える。

(DVD)

発 DVD (2)「地震に備えよう」を観る(10分)。時間が許せば(1)「地震が起こったら」(10分)も。

発 用意が可能であれば、乾パンを食べる体験なども面白い。

秋ー5 自転車で行こう

1. 活動の目的

- ①日常生活の「足」としての自転車に注目し、環境や健康といった面から自転車の良さを知る。
- ②自転車の交通安全ルール、マナーを知る。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆「交通安全テスト」配付用にコピー

☆映画「E. T.」のポスター写真

3. 活動の手順

留：留意点

参：参考

発：発展的活動

活動1

- ・自転車との出会いについて話す。どのように自転車に乗る練習をしたか、乗れた時、どんな気持ちだったかなど話すとよい。自転車に乗れない学習者がいたら、自転車に乗れるようになりたいか、乗れたらどこへ行くかなど聞いてみる。
- ・自転車を持っていない学習者には、買い物や子供の学校に行く時など、何で行くか聞く。
- ・学習者の国での自転車事情を話してもらう。
自転車の利用度、目的（遊びが主か、生活の移動の手段か）
どの家庭にも必ずあるか など

参

ある韓国人の学生は日本の自転車について「自転車が多くてびっくりしました。韓国では、自転車はレクリエーションとして楽しむもので、日本のように移動や運搬など実用的には乗らないから」と述べている。

「E. T.」の
ポスター

参

スティーブンスピルバーグの映画「E. T.」で少年が乗っていた自転車は日本製（大阪今里「桑原自転車」製）。E. T. を知っている学習者がいたら、活動の導入として映画のポスターを見せ、話してもよい。

活動2

- ・日本で見た「自転車」についての感想を話す。テキストの写真のような光景を見たことがあるか、聞く。
※テキストの写真左は放置自転車の山、右は歩道をふさいでとめてある自転車
- ・放置自転車は市などが撤去し、引き取りにはお金がかかること、点字ブロックの上に自転車を止めてはいけないことなどにも言及する。

参

・外国人からは、女性がハイヒールで自転車に乗っている／お年寄りが乗っている／自転車を止めておいても盗まれない などの声がよく聞かれる。

活動3

・北川さんの話に書いてあることを参考に、環境や健康面からどんなメリットがあるか考えてもらう。デメリットも考える。

参 自転車のメリット、デメリット:

- ・車の渋滞の緩和（＝早く目的地に行けて時間の節約ができる・排気ガスによる大気汚染の軽減）／いい運動になる／走りながら自然を感じることができる
- ・放置自転車の問題／マナーの悪さ 等

・「ママチャリ」のイラストを見て「ママチャリ」はいわゆるスポーツタイプの自転車とどこが違うか、話す。ママチャリに乗っている学習者がいれば、どんなところがいいか、話してもらう。

参 「ママチャリ」は俗称。女性が乗っても安定走行ができ、主に買い物のために利用される自転車。前かごがある、スタンドは両立スタンド、またがりやすいようにフレームが低くなっているなどの特徴がある。日本の「ママチャリ」は海外でも評価されている。

活動4

・事故の経験を読んだあとに、次のような質問を投げかけて、学習者に考えてもらう。

＊歩道を自転車で走っている人を見たら、あなたは注意しますか。

＊もし、あなたがこの男性だったら、相手が「大丈夫」と言えばそのまま行ってしまいますか。

＊あなたがマリアさんだったら、事故が起きた時、自転車の男性に何と言いますか。

・自転車事故の経験を話す。大きな事故でなくても、ちょっとした事故やヒヤッとした経験でもかまわない。また、見たり、聞いたりしたことでもよい。

・テキストの表を見て、自転車事故が増えていること、歩道での事故が多いことに言及しておく。

・交通安全テストは学習者が一人でやるのではなく、二人か三人のグループで相談しながらするほうが楽しいだろう。

答え：①× ②× ③○ ④× ⑤× ⑥× ⑦× ⑧○ ⑨× ⑩×

秋ー6 川柳を楽しもう

1. 活動の目的

- ①日本の文化の一つである川柳を楽しむ。
- ②川柳を作る活動を通じて、日本語のリズムや「音」を体得する。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆川柳サンプル

- ・短冊
- ・大きい紙
- ・サインペン

3. 活動の手順 発：発展的活動 留：留意点 参：参考

活動1

- ・テキストの川柳を、各自声を出して読む。縦書きにも慣れる。
- ・その中で上手に5・7・5のリズムで読めている学習者を指名して、読んでもらう。
- ・その後全員で声を出して読み、5・7・5のリズムを感じてもらう。
- ・それぞれの川柳について、どういう状況か、作者の気持ちを想像して話し合う。
- ・そして、学習者自身がどう感じたかなど、質問しながら話す。

参 5・7・5の数え方は「拍」と「音」と両方あるが、ここでは「音」で統一した。

留 専門的な「上5・中7・下5」という言い方を使わず、必要なときは、「初めの5音」等、学習者が理解しやすい言葉を使う。

参 日本の詩歌

- ・短歌：5・7・5・7・7 31文字（みそひともじ）
- ・俳句と川柳：5・7・5
- ・俳句と川柳の違い：
俳句は自然や風景情景を詠む。季語が必要。
川柳は人間模様や社会風刺を詠む。ユーモアやウィットを織り込む。

活動2

- ・3句の川柳のかっこ内を、与えられた言葉の中から選び出し、埋めて完成させる。
- ・1) 音を数えて定型に、2) 川柳の文脈を理解して、言葉を選べるようにする。
- ・会話しながらヒントを与える。

例：「その（ ）内なら、何音の言葉が入る？」

「昼ごはん、この「僕」はコンビニで買うのね。

その後を想像して思いつく言葉がありますか？」

活動3

- ・ 5・7・5の定型を守るために、音の基本の数え方を知る。
- ・ 表にした例を学習者と一緒に声に出して読み、音を確認する。
- ・ 実際に指を折って数えながら、一緒にやってみるとわかりやすい。
- ・ 音の数え方を理解した上で、6つの言葉の音を知る。

[正解] 日本語・4音 公園・4音 ワンピース・5音

いっしょ・3音 ミックスジュース・7音 学校・4音

活動4

大きい紙
サインペン

- ・ グループで学習者全員が言葉を連想しやすいようなテーマを決められるよう手伝う。
- ・ 学習者各自がテーマから連想される言葉を、5音、7音を確認しながら、大きい紙に書き出す。
- ・ ある程度出そろったら、各自で5・7・5の定型にして、川柳を作る。
- ・ 皆で連想した言葉と、自分で思いついた言葉を、組み合わせても良い。
- ・ テキストの四角のマスの中に、書きこむ。
- ・ 漢字が書ける学習者には、マスが余っても良いので漢字を使ってみることを勧める。
- ・ 資料にある色々な川柳を見て川柳の型に慣れる。

留 字余り等の破型（定型でないもの）については、ここでは説明しないので、定型になるように、ヒントをあげるなどして手伝う。

活動5

短冊
サインペン
川柳サンプル

- ・ 出来上がった川柳を短冊に書く。
- ・ グループ内で、短冊をまわしながらお互いの川柳を鑑賞する。
- ・ 学習者自身の想いや、他の学習者の作品の好きなところ等を話す。
- ・ 学習者全員で、今日の「一番人気の川柳」を選ぶ。

留 短冊に書く時に、縦書きに慣れてない学習者は、紙に書いて練習しても良い。

発 ①学習者全員の短冊をSIFAの掲示板に1ヶ月ほど貼り出して、SIFAに来る人達に人気投票をしてもらう。

②結果が出たら上位3人位に、お花マークをつけるなどして、健闘を讃える。

③本人の了解を得て、「SIFA Times」やSIFAのFacebookに掲載する。

④一般の川柳投稿サイトなどに投稿するのも楽しい。

秋ー7 だれか助けて

1. 活動の目的

- ①救急車の利用の仕方を知る。
- ②ひったくりなどのトラブルにあわないよう、防犯意識を高める。
- ③トラブルにあった時に、助けが求められるようにする。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆自動販売機の写真 (住所表示) /道路標識写真 (住所表示番号シール)
- ・防犯グッズ (ひったくり防止ネットなどあれば)

3. 活動の手順

留：留意点

参：参考

発：発展的活動

活動1

- ・急な病気やけがの場合に、学習者それぞれの、病院までの移動手段を話す。
- ・学習者の国で救急車のシステムがどのようなになっているか、また利用した経験があるかを聞き、日本の場合と利用の仕方に違いがないか話し合う。

活動2

- ・自宅でけが人が出た際に、電話で救急車を呼ぶ練習をする。この練習ではまず、けが人が出たことと、自宅の住所が言えることを目標にする。

発

余裕があれば、実際の通報に近い練習をする。

けがや病気の状態を伝える

例：年齢・性別・どんなけがか・今の状態は？

- ・救急車が来るまで何をすればいいか聞く
- ・外出先では場所の説明に苦勞することが多い。まずは、近くにいる日本人に助けを求める。

自販機の写真
道路標識写真

参

自分で通報する場合は、近くにどんな建物があるか、漢字で書かれた住所表示が読めるなら、町中に番地が書かれていることを知っておくとよい。

また、自動販売機 (住所表示) や道路標識柱 (番号が書いてあるシール上3ケタ、下5ケタ) にも表示がある。道路標識の番号シールは漢字が読めなくても正確な位置を伝えることができる。

参

外国人が通報してうまく伝えられない場合は、近くにいる日本人に代わるよう指示される場合がある。

活動3

防犯グッズ

- ・今までに怖い目にあったことがないか聞いてみる。日本に限らず、国での経験を話してもらってもよい。
- ・犯罪に巻き込まれないように、気をつけていることがあるか聞いてみる。
例：夜道は一人で歩かない。下着は外に干さない。など
- ・ひったくりの被害にあわないようにするためにはどんな注意をすればいいか話し合う。

絵の意味：

自転車につけるひったくり防止カバー/かばんをたすき掛けに持つ/歩きスマホをしない/街灯のある明るい道を選ぶ（午後6時以降が危険）

- ・学習者の国ではどんな対策をしているか聞いてみる。
- ・鍵の重要性を確認してもらう。自転車をちょっと止める間や玄関前に止めたときにも鍵は必要。自転車については、警察から2重ロックが推奨されている。
- ・オートロックのマンションでも、油断していると泥棒に入られることがある。数分のごみ捨てやうちにいる場合でもかけたほうが安心なことを話す。
- ・万一事件にあってしまった場合は、どうやって助けを求めるか話し合う。うちの近くや、通勤（通学）経路に交番があるか、場所を確認する。

参 外出している際に危険を感じたら、交番に逃げ込むだけではなく、店や民家にも助けを求められることを知る。「こども110番の家」の表示を確認しておく。

活動4

- ・練習の最後には少し大きめの声を出して助けを求める練習をする。

留 声を出す場合は、周りに気をつけて迷惑をかけないように練習する。

参 警察への110番通報は携帯電話からでもできる。
もし、携帯電話がなくても公衆電話から無料でかけられる。

発 よくできる学習者の場合は、110番通報の仕方を練習してみるとよい。

110番の会話

- ・事故ですか。事件ですか。
- ・何がありましたか。
- ・どこですか。
- ・いつですか。（時間は？）
- ・だれが？
- ・どうになりましたか。

秋－8 なにゆうてるか、わからへん

1. 活動の目的

- ①地域で話されている方言について知る。
- ②家族や友人が話す方言を理解し、楽しくコミュニケーションをする。
- ③看板や標語、商品名など身近なものを通して関西の言葉遊びの文化に触れる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆CD（大阪弁音声1、音声2、歌『ええねん』）
- ☆大阪弁の表示の写真
- ☆まんがサンプル（切り抜き）
- ☆歌詞カード（『ええねん』・『ええじゃないか』）

3. 活動の手順

留：留意点

参：参考

発：発展的活動

活動1

- ・大阪弁がわからずに困った経験がないか話す。
- ・家族や友人など身近な人が話す日本語と教室で習うものと違いがないか聞いてみる。
- ・学習者が知っている大阪弁や聞いて分かる表現について話す。
例：めっちゃ/知らん/ほんま など

参

大阪弁を意識したことがない学習者がいた場合は、ボランティアが短い会話のやり取りを演じて聞かせてみるとよい。

例： Aちゃん：お母さん、日本語教室って、何時からやったかな？
お母さん：10時からやで。忘れもんせんと行きや。

留

方言は辞書では調べられないので、日常生活の中で会話を通して覚えていくしかない。

活動2

- ・簡単な大阪弁の言葉と、表現をクイズ形式で楽しみながら紹介する。
言葉の答え：①c ②d ③b ④e ⑤a ⑥f

会話の答え：

CD

（音声1、2）

娘「このケーキ、食べてもいい？」

母「もうすぐ ご飯だから、だめ。」

たろう「ごめん、借りた傘、なくしたんだ」

はなこ「いいよ（かまわないよ）、いいよ。安いものだから」

さくら「これ、君の傘？」

ももこ「ううん、ちがうよ。」

さくら「わたし、結婚したの。」

ももこ「えーっ！いつ？」

活動3

- ・大阪弁のルール（文法）を説明する。規則を知れば、理解もしやすくなることを伝える。

留 方言は家族間など親しい間柄や、地元のカジュアルな場面でよく用いられる親しみのもてる地域のことばである。しかし、使用場面によっては、違和感を与えたり、相手に不快な思いをさせたりすることもある。方言を話す際は、相手や場面に配慮が必要であることを説明しておく。このユニットでは、実際に使用することに重点を置かず、意味がわかること（聞いたり、読んだりすること）を中心に練習する。

活動4

大阪弁の
表示の写真

- ・町の中にある大阪弁のおもしろい表示を読んでみる。標語や商品名に使われている。（商品名例：「～さんちの“ええ”たまご」など）

発 活動のあとで、学習者に自分の身の回りにある面白い表示などを探してくるよう言い、教室で発表する。

- ・まんがや歌などに使われている大阪弁に触れ、楽しく活動する。

まんがサンプ
ル
歌詞カード
CD（歌）

参 『ののちゃん』いしいひさいち作（朝日新聞朝刊に掲載）
『ええねん』ウルフルズの名曲
『ええじゃないか』ジャニーズ WEST

秋－9 大丈夫、大丈夫

1. 活動の目的

- ①失敗したり、落ち込んだりした経験と、その時どうやって乗り切ったか、話す。
- ②慰めたり励ましたりする表現を知り、「大変ですね」プラスアルファの一言が言えるようになることにより、より親密な人間関係を築けるようになる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

特になし

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動 1

- ・マリアさんの例を読んで、思ったことを話す。
- ・今までの失敗の経験を話してもらおう。失敗して落ち込んだ時、どんな方法で乗り切ったか聞く。気分転換の方法を聞いてみる（人に話すか、一人で気分転換するか、など）ボランティアも自身の経験を話す。
- ・学習者自身が慰められたり励まされたりした経験を話す。誰が、何と言って（またはどうやって）慰めたり励ましたりしてくれたか、そのとき、どんな気持ちだったか、など。

留 話したくないことは無理強いしないこと。

活動 2

- ・つらいことがあった時いつも思い出す、心の支えとなる言葉があるか聞いてみる。歌や詩でもよい。日本語でどんな意味か聞く。
- ・マリアさんの立場から、落ち込んでいるゆう子さんを励ます。自由に発言してもらおう。

留 慰め方、励まし方はいろいろあるし、文化的な違いもあるだろう。学習者から言葉が出たらまずは否定せずに受け止めること。

活動 3

～活動 5

- ・会話例を見ながら、慰め方、励まし方のいろいろな表現を紹介する。
- ・例を読んで意味がわかったら、会話を練習する。
- ・次に、《練習》何と言ったらいいか考える。ボランティアは手助けする。A さん役（失敗を話す）と B さん役（慰める）とでロールプレイする。

発 さらに練習するのもよい。ケース例：

＊彼女を映画に誘ったが、またフラれた。3 回目だ。（活動 3 の練習）

＊買ったばかりの白いじゅうたんに、熱いカレーの鍋を落とした。（活動 4 の練習）

発 それぞれのパターンを使ってうまく言えるようになったら、ボランティアが失敗談を言い、学習者に慰めてもらうロールプレイをする。

留 悩みではなく失敗談にすること。

発 慰め・励ましの表現にはほかにも次のようなものがある。よくできる学習者には紹介してもいいだろう。

- (例)
- ・肯定して安心させる。
 - ・手伝ってあげると言う。「私にできることあったら言ってね」「話ならいくらでも聞くよ」など
 - ・「よくあることだ」「大したことじゃない」と言う。
 - ・あなたが必要だと言って励ます。
 - ・2つ以上のパターンを組み合わせることも多い。

発 会話例は、実際の会話よりもシンプルになっている。よくできる学習者の場合、より自然な会話にして練習するとよい。

(例) A: 引っ越しすることになってね。B: えーっ！ どうして？ いつ？ どこ行くの？
.....

発 「気を落とさないで」「形あるものは必ず壊れる」「時間が解決してくれる」「明けな夜はない」など、学習者の国にも同じような言い方があるかどうか聞いてみる。

冬ー1 インフルエンザにご注意！

1. 活動の目的

- ①インフルエンザに関する経験と知識を分け合う。
- ②インフルエンザの予防方法を知る。
- ③インフルエンザにかかったとき、電話連絡のし方を練習する。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆手の洗い方、うがいの方法プリント

☆インフルエンザの症状一覧表

3. 活動の手順

留：留意点

参：参考

発：発展的活動

活動1

〈ニュースコラム〉

難しい言葉の説明はしなくてよい。冬になるとインフルエンザの記事やニュースがよく出てくることを伝えればよい。

- ・図を見ながら、学習者が自分の言葉で説明できるかどうかを確認する。言い方がわからなければ教える。
- ・①～③は予防するためにすること（手を洗う、うがいをする、マスクをつける）、④～⑥は習慣的なこと（湿度を保つ、十分な睡眠をとる、バランスのとれた食事をとる）である。
- ・正しい手の洗い方、うがいの方法を実演する。

手洗い・うがい
プリント

留 お茶や紅茶、うがい薬を使うなど、いろいろなバリエーションも紹介できる。

活動2

症状一覧表

- ・インフルエンザの予防接種を受けたいとき、どの病院へ行けばいいか、必要な手続きと費用について話し合う。
- ・インフルエンザにかかった経験、かかった時の気持ちなどを話す。
- ・インフルエンザにかかったことのない学習者には、家族や知り合いの経験、かぜをひいた経験などについて聞く。まったく経験がない方に健康を保つ方法を聞く。
- ・インフルエンザの症状を紹介し、風邪との違いを話す。

活動3

- ・インフルエンザにかかったとき、病院に出席停止の期間をお医者さんに聞いて、答えを聞き取る練習を行う。
- ・ボランティアが医者役、学習者が患者役で練習する。

参 平熱、微熱、高熱の違いを話し、それぞれ何度と思うかを聞く。何度になったら熱だと思うか、普通の体温は何度ぐらいか、国によって基準が違うかもしれない。平熱を知らない人も多い。

活動4

- ・「バイト先に電話をかける場合」と、「学校に電話をかける場合」の練習をやってから、学習者に自身の状況に応じて、バイト先の担当者の名前や子どもの担任の名前を代入して練習する。
- ・日本語教室に欠席を伝える電話の話し方を練習する。

冬ー２ 冬を暖かく

１．活動の目的

- ①冬を暖かく過ごすために、みんなの知恵を共有する。
- ②自分の国の冬の過ごし方を発表する。日本に来てからの違いを比べてみる。
- ③吹田の最低気温や地域の冬の生活情報を交換する。

２．準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ・ふせん、大きい紙
- ☆身体を温める食材のリスト

３．活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動１

- ・学習者が来日したときの季節を聞き、来日して初めての冬などを話題にする。
- ・日本で体験した冬について話し合う。
- ・学習者の住んでいたところの最低気温を聞く。吹田市の最低気温と比べる。
- ・自分の国の季節や気候について話し合う。
- ・何月から何月までが「春」なのか知らない学習者がいたら、日本の四季は大体何月から何月までを紹介する。

活動２

ふせん
大きい紙

- ①冬を暖かく過ごす方法を考えてもらって、各自アイデアをふせんに書いてもらう。１枚のふせんに一つのアイディアを書き、できるだけ多く書くように指示する。
- ②ボランティアが大きい紙にこのように書いておく

家にいる時	外に出る時	食べもの

活動３

- ③各自ふせんの内容について説明してもらう。説明してから、大きい紙に分類して貼る。
 - ④重複するふせんを取り除いて、みんなでベストアイデア賞を決める。
 - ⑤ベストアイデア賞、または試してみたい方法を各自テキストに書く
- ＊クイズの答え：首、手首、足首

身体を温める
食材リスト

- ・できれば湯たんぽや入浴剤など実物を準備して、使ったことがあるかを聞く。
- ・体を温める食べ物や料理について、みんなの意見を聞く。日本の冬によく食べる料理を紹介する。
- ・冬のインナーや防寒着を話題にする。使い捨てカイロ、服に貼るカイロもおもしろいと思う。できれば防寒用のインナーやカイロの実物を準備しておくといい。

参 中国では、「冬令進補」という習慣があつて、栄養価の高い薬膳鍋を食べる。

活動4

- ・冬が好きかどうかを聞いて、それぞれの理由を話してもらう。雪に対するイメージ、思い出も話題にできる。
- ・冬を楽しめるイベント、冬だからこそできる活動を話してもらう。日本で言えば冬のイルミネーション、スキー、温泉などが挙げられるが、海外でも色々あると思う。どこで、誰と、何をする活動なのか、その活動をやってどう思うかをきいてみよう。ボランティアも体験談を話して、学習者の感想を聞く。

冬ー3 年末パーティー

1. 活動の目的

- ①日本と海外の忘年会について話し合う。
- ②日本語教室の年末パーティーを想定して楽しむ。
- ③ゲームを通して日本語を練習する。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆カード①（私はだれ）、②（ここはどこ）

3. 活動の手順

発：発展的活動 **留**：留意点 **参**：参考

活動1

- ・「いつ」「だれと」などの他に、どんな場所ですか、会社の忘年会はだれがお金を出すかなど、質問を広げる。
- ・みんなの前で披露できる特技について聞く。もし、その場で披露してもいいなら披露してもらう。

参 年末パーティーについて、国によって名前と習慣が異なる。日本で言えば「忘年会」、台湾で言えば「尾牙（ウェイヤー）」、中国で言えば「新年会」など、それぞれお決まりの行事がある。「嫌なことを忘れる」という意味合いは他の国ではないようである。

活動2

カード①

- ・日本語教室の年末パーティーで行うゲームとして進行する。

☆「私はだれ？」ゲーム☆

カード①

スーパーマン	ベートーベン	アインシュタイン	ドラえもん
ハローキティ	オードリー・ヘップバーン	マザー・テレサ	
ガンディー			

1. ボランティアが司会をする。司会者がルールを説明してから活動始める。
2. 遊び方を示すために、一回目はボランティアが行う。二回目からはみんなで遊ぶ。
3. まず、一人目の挑戦者がカードを一枚選ぶ。挑戦者はカードを見てはいけない。司会者は、カードの人物を知っているかどうか挑戦者以外の人に確認する（もしみんなが知らなかったら、パスして他のカードを選ぶ）。
4. カードを決めてから、ヒントを考える時間（1～2分）をとる。
5. みんなが挑戦者に一人一つずつカードの人物のヒントを言う。思いつかないときパスしてもいい。
6. すべての人がヒントを出してから、挑戦者がみんなの答えを基に人物の名前を答える。間違ったら、今度は挑戦者からみんなに質問をする（私は賢い人ですか、メガネをかけていますか、など、「はい」か「いいえ」で答えられる質問）。挑戦者は二回目から答えを思いついたらいつでも答えることができるようにする。それでも正解が出てこなかったら挑戦失敗で、ほかの人に代わる。

参 学習者と一緒にカードのお題を考えてもよい。

カード②

☆ここはどこですか？ゲーム☆

カード② 図書館 デパート 国際交流協会 海 郵便局

- ・ ☆私はだれ？ ☆のルールと同じように、「人物」を「場所」に入れ替えて進行すればいい。

参 挑戦者が初級レベルの場合、答えやすいカードをボランティアが選んであげるとよい。

活動 3

- ・ 学習者が紹介できそうなゲームを思いつかないようなら、じゃんけんを使った簡単なゲームなどを紹介してもらおうとよい。
- ・ 時間があればみんなの国のじゃんけんの言い方とジェスチャーを聞く。

活動 4

- ・ 思い出の一枚を撮る練習をする。
- ・ いつも通りの記念写真ではなく、特別な一枚を撮るためにどんなポーズが面白い
か、みんなで話し合う。

留 実際に写真を撮るときには、できればみんな違うポーズをすると面白い。写真を撮る人がポーズを指示してもいい。

- ・ 【参考：ポーズのことば】 以外の動詞や形容詞でポーズを説明してもいい。
- ・ みんな自分のポーズを決めたら、一回みんなでポーズを試してみる。
- ・ もし実際に写真を撮るなら、撮られた全員の承諾なしに写真を利用してはいけ
ないとみんなに注意する。

冬ー4 どうぞよいお年を

1. 活動の目的

- ① 1 年を振り返り、印象に残ったことを話して、みんなで楽しく 1 年を締めくくる。
- ② 日本の年末の習慣を知る。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆おせち料理の写真

☆年賀状（練習用）人数分コピーする

※学習者に年賀状（実物）を持ってくるとうと尚よい。事前に言うておくこと。その際、郵便局で買えること、いろいろ種類があるが「無地」でいいことも伝える。また、年賀状を送りたい相手の住所も準備してくるよう言うておく。但し、強制はしない。

☆年賀はがき、普通のはがきのサンプル

・色鉛筆またはカラーペン

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動 1

・エリーさんの例のように‘自分の 3 大ニュース’を話してもらう。思い出す時間を少し取ってから、一人ずつ発表する。ボランティアも発表する。



3 つなければ、2 つでも 1 つでもよい。

プライベートなニュースを話したくないという学習者には強要しない。

社会的な出来事で印象に残ったこと（世界の／日本の／自国の三大ニュース）でもよい。

活動 2

おせち料理の
写真

・まず、元太君の日記を読んで、日本の一般的な年末の過ごし方を知ってもらう。イラストの事柄について経験のある学習者がいたら、どこで、だれと見たか、食べたか、聞いてみる。また、おせち料理の写真を見せて、デパートなどでおせちを売っているのを知っているか聞いてみるのもよい。



除夜の鐘、年越しそば、紅白歌合戦などの説明に終始しないよう留意する。学習者のレベルに応じて、何をどこまでどのように説明するか準備しておき、学習者から質問があれば、答える。



日本の正月は 1 月 1 日だが、旧正月（2 月ごろ）を祝う国もある。

- ・次にテキストの質問に沿って、学習者の国の年末について話す。
- ・正月料理について説明するのが難しいようであれば、絵を書くように言ったり、魚か肉か野菜か、甘い辛い、どんな色かなど聞いたりして、学習者の発話を手助けする。

活動3

はがきサンプル

- ・テキストの昆布巻き等の写真で、おせち料理には意味があることを紹介し、学習者の国でも同様のことがあるか、聞いてみる。吹田のイメージキャラクター‘すいたん’は「吹田くわい」であることも紹介する。

- ・年賀はがきと普通のはがきを見せて、どこが違うか気付いたことを言ってもらう。スタンプのデザインが干支であること、くじがついていることなどを話題に話を広げる。
- ・干支を知らない学習者には、日本では年（とし）に動物の名前がついていて、「今年は〇〇年」という言い方をすることを紹介する。

年賀状コピー
色鉛筆など

- ・練習用の年賀状コピーに年賀状を書く。ボランティアが書いて見本を見せる。
- ・学習者が年賀状を持ってきたら、練習した後、実際に年賀状を書いてもらう。
- ・年賀状はできるだけ元旦～3日に届くように、12月15日～25日ぐらいに出すのがいいということも教えるとよい。

留 年賀状を書くのに時間がかかるようであれば、先に活動4の挨拶を練習し、年賀状を書くのは活動の最後にもってきてもよい。

活動4

- ・学習者に、近所の人や会社の人などまわりの人に自分から「どうぞよいお年を」と声をかけるようにしておく。

冬ー5 あけましておめでとうございます

1. 活動の目的

- ①日本のお正月の行事や習慣を知る。
- ②今年の目標を決め、新しい気持ちで1年をスタートする。
- ③「笑い」の効用を知り、健康で楽しい生活を送る。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆お正月クイズ (クイズ、答え) ※国際交流基金「みんなの教材」から
- ☆「今年の目標」を書く用紙 (人数分コピーする)
 - ・サインペン、あるいは筆ペン
- ☆「お笑い神事」資料
- ☆福笑い (台紙とパーツ)
 - ・目隠し用のタオルかアイマスク (学習者に各自持ってきてもらうのがよい)

3. 活動の手順

留：留意点

参：参考

発：発展的活動

活動1

- ・年末からお正月にかけてどのように過ごしたかを学習者に話してもらう。テキストのイラストの中に、学習者が知っているもの、経験のある事柄があれば、それについて話してもらう。

お正月クイズ

留 テキストのイラストは、話のきっかけを与えるためのものなので、全部について詳しく説明したり、話したりする必要はない。

発 よく話せる学習者には「お正月クイズ」を解きながら、日本や学習者の国のお正月について話すのもよい。

活動2

- ・「一年の計は元旦にあり」の意味がわかるか、聞いてみる。わからなければ説明する。学習者の国にも同じようなことわざがあるか聞くとよい。

参 一年の計は元旦にあり：一年の計画は年の初めである元旦に立てるのがよい。物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということ。

「今年の目標」
用紙
サインペン
筆ペン

- ・パオさんの年賀状を読んでから、まず、グループで、今年やってみたいことを自由に話す。「やってみたいこと」はいわゆる「目標」でもいいし、「〇〇へ行きたい」とか「〇〇を買いたい」のような実現したい希望でもかまわない。
- ・次に今年の目標をテキストに書いてある文型を使って書く。
- ・「今年の目標」の用紙に、自分の目標を書く。ボランティアはどう書いたらいいか手助けをする。
- ・用紙下の「だるま」の意味を説明し、目標が達成できたら目を書きこむように言うておく。

活動3

「お笑い神事」
資料

参 「だるま」は禅宗の開祖達磨大師が壁に向かって9年の座禅をした姿を模したものだと言われている。縁起物として広く親しまれており、何らかの願い事をしたときに片目を書き入れ、願いが叶うともう一つの目を書き入れる習慣がある。特に決まりはないが、左目（向かって右目）から書き入れるのが一般的。

- ・「笑う門には福来る」の意味を聞いてみる。学習者の国にも同じようなことわざがあるか聞くとよい。
- ・「笑いの効用」をみんなで考える。学習者からあまり出なければ、「気持ちが明るくなる」「顔の筋肉を動かすので美容にいい」など、ボランティアが分かりやすい例を出す。

参 大阪府東大阪市の「枚岡神社」では毎年12月下旬に笑って新年の幸せを願う「お笑い神事」がある。

- ・テキストの「あいさつ笑い」「ライオン笑い」「顔のじゃんけん」をみんなでする。これはおもしろいことで笑うのではなく、「笑いの体操」であることを説明する。最初に準備運動をすると活動に入って行きやすい。まずボランティアが見本を見せる。
- ・「顔じゃんけん」の「グー」はすっぱいものを食べた時、顔の筋肉が真ん中による感じ、目は閉じない。「チョキ」は口をとがらせ、鳥のくちばしをイメージする。
- ・顔じゃんけんをする二人が向き合い、もう一人が「じゃんけんポン」と掛け声をかける。

留 ボランティアは恥ずかしがらずに、大きな動作と大きな声で「笑い」の見本を見せること。とても恥ずかしがったり、参加したまらない学習者には活動を強要しない。

活動4

福笑い
目隠し用タ
オル

- ・福笑いのやり方を説明する。

発 「いちばん上手にできた人」「いちばん面白い顔になった人」など基準を決めて「福笑い大賞」を授与したり、ペアを1組として、数組で顔が出来るまでの時間を競うなど、いろいろ工夫して福笑いを楽しむ。

冬ー6 「福」を呼ぼう

1. 活動の目的

- ①季節の行事「節分」について知る。
- ②日常生活の中に浸透している「お守り」や「縁起担ぎ」を話題に、「福」や「幸せ」を願う気持ちを共有する。
- ③日本の「縁起」の習慣を知り、人付き合いに生かす。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆鬼の面

☆神社のお守り袋（実物）

3. 活動の手順 留：留意点 参：参考 発：発展的活動

活動1

鬼の面

- ・「豆まき」を見たり、したりしたことがある学習者がいたら、どこで見たか、どんなことをしていたか、したかなど経験を聞いてみる。
- ・「父親が鬼になって、子どもが豆をまくことが多い」「まず、福は内で福を招き入れ、次に鬼は外で鬼を追い出して、すぐ窓を閉める」というような、家庭での豆まきの習慣を紹介する。
- ・「邪」とされるものは国によって違うが、鬼の面を見せて、もし学習者の国で「邪」とされるもののイメージがあれば、その絵を描いてもらうのもよい。

活動2

神社のお守り袋

- ・一般に知られているお守り（日本・学習者の国）について話す。何のお守りか（安産、交通安全、合格祈願など）聞いてみる。
- ・写真のお守りについて知っている学習者がいたら、話してもらう。全部についてボランティアから説明する必要はない。

参 写真のお守りは左から 中国（開運厄除け）、トルコ（目玉のお守り 魔除け）、日本（安産お守り）、韓国（唐辛子のお守り 厄除け）

発 自分だけの「お守り」について話す。いつも身につけていて、自分を守ってくれていると思うものについて話してもらう。

活動3

- ・「おまじない」の意味がわからない（説明できない）場合は、いくつか具体的な例を挙げる。テキストのミサンガ、「愛の南京錠」を例にするとよい。ミサンガが自然に切れると願がかなうと言われる。また「愛の南京錠」は恋人同士が写真のように錠をかけると、絶対別れないと信じられているもの。
- ・「こうしたら幸せになれる、願い事がかなう」というような風習はどこの国にもあるので（「七夕に願いをかけるとかなう」「ローマのトレビの泉で後ろ向きにコインを投げるとまたローマに来ることができる」など）、学習者から上手に話を引き出す。

活動4

留 活動2と活動3は内容が共通している部分があるので、きちんと分ける必要はない。お土産としてもらったりあげたりすることも多く、アクセサリーとして身につけたりするもするお守りについて、学習者に自由に話してもらうとよい。

- ・表の項目1つずつについて、日本の欄に書かれていることをボランティアが説明し、学習者の国ではどうか、話してもらう。

留 日本の欄のうち、特に書くことがないところは空欄になっているが、ボランティアが紹介したいことがあれば、言っても差し支えない。

- ・表の項目以外にも、日本では／学習者の国ではこういうことはしないとか、相手にいい印象を与えないというようなことがないか聞いてみる。

参 贈ってはいけないとされるものの例

[中国] 置時計：置時計を贈る(song zhong)=送終（死を看取る）

ハンカチ：悲しいときに涙をふくもの

[ロシア] 黄色い花は関係が終わることを意味する。赤いカーネーションは、墓前に供えるもの。

[韓国] 靴を贈るのはタブー。「この靴を履いて、さっさと去れ」とか、「靴を履いて逃げられてしまう」ということを示す。

- ・このような風習を守るか、気にしないか（特によくないとされていることについて）、具体例を挙げて聞いてみる。
- ・もし、外国で生活していて（ボランティアも学習者も）自分がその国の習慣を知らなかったり、相手が習慣を知らなかったりしたとき、どう思うか聞いてみる。

例) 韓国人の学習者に：日本人の友達から靴をプレゼントされたら？

ボランティアに：アメリカ人の友達に黄色い菊の花束をプレゼントされたら？

留 ここでは「こうするのが正しい」「こうしなければならない」と結論付けるのではなく、縁起やタブーの話を通して様々な文化、価値観があることに気づいてもらうことが目的である。

冬ー7 スピーチしよう

1. 活動の目的

- ①「私の町」をテーマに短いスピーチをする。
- ②スピーチの心構えを確認し、人前で自信を持って話せるようにする。
- ③仲間のスピーチを聞き、話し合う。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

☆スピーチ例

☆太陽の塔の写真

☆ワークシート (両面コピーで裏面は罫線) (人数分コピー)

- ・大きい紙
- ・サインペン、カラーペン
- ・その他、適宜、手持ちの地図や辞書などを使ってください。

留 事前に、自分の町の紹介のための写真や小物があったら持ってくるよう学習者に伝えておく。

3. 活動の手順 **留**: 留意点 **参**: 参考 **発**: 発展的活動

活動1

- ・今までに、スピーチをしたことがあるかどうか聞く。日本語以外でのスピーチでも構わないので経験を話してもらう。

活動2

- ・自分の町について話す。後でスピーチのトピックを決めるため、名前、場所、有名なものなど、テーマを設定して話す。

活動3

- ・日本語教室の発表会に参加するという設定で、スピーチの準備をする。スピーチの時間はひとり当たり5分間と設定する。
- ・何を話すか、2つまたは3つトピックを選ぶ。

参 スピーチ例及びワークシートでは3つのトピックをあげているが、トピックの数やスピーチ時間を学習者に応じて変えるとよい。

(例) 入門レベルなら、スピーチ時間を短くしたり、紹介する内容や文の数を少なくする、よくできる学習者なら、紹介する内容を一つに絞って掘り下げて説明するようにする、など。学習者に合わせた活動にする。グループ内で差があってもかまわない。

活動4

スピーチ例

太陽の塔の写真

ワークシート

大きい紙

サインペン

カラーペン

- ・スピーチ例と資料 (太陽の塔の写真) を使って、ボランティアがデモ・スピーチを行う。
- ・文章を考える。必要に応じて語彙や作文の手助けを行う。ワークシートに書き込む。
- ・絵が必要なら大きい紙に描く。写真や小物を持ってくるよう学習者に伝えておく。

発 よくできる学習者には、ワークシートの文にこだわらず、裏面を使って自分で考えて作文してもらってよい。

活動 5

- ・全員の準備ができたなら、くじやじゃんけん等で話す順番を決め、一人ずつスピーチを行う。スピーチに適した話し方（ゆっくり、はっきり、大きな声で、など）にも気をつけるように言う。

活動 6

- ・それぞれのスピーチの後に質問タイムをとる。

発 ボランティアも一緒に作文し、スピーチに参加すると尚よい。

冬－8 日本で働く

1. 活動の目的

- ①仕事で経験した楽しさや大変さについて話す。
- ②働く日本人の様子から感じた自国との文化の違いなどを話し合う。
- ③仕事の面接の際に気をつけることを知る。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

- ☆職業名の各国語訳
- ☆履歴書サンプル
- ・求人広告

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

- ・過去の仕事の経験から仕事を通して得た知識や様々な体験を話してもらう。これは日本で働いた経験に限らず、自国での経験についてでもよい。そこで身につけたスキルなどを聞くと、意外な特技が発見できるかもしれない。
- ・日本で働いた経験のある人には日本の職場で大変だった経験を聞いてみる。
例：日本語がわからなくて困った。
「お冷（水）」/「上がってもいいよ（帰ってもいいよ）」など
- ・自国との文化の違いで戸惑ったことがないかなど話してもらう。
例：仕事のあとの飲み会や社員旅行など職場の付き合い、休みが取りにくいなど

活動2

職業名の
各国語訳

- ・今やりたい仕事は何か、またその仕事をするには何か必要な資格があるかなど話し合う。
- ・ここで日本にはどんな仕事があるか、またその仕事の名前を確認するとよい。

留 この活動でやりたい仕事やその理由を十分話し合っておくと、**活動4**がやりやすくなる。

- ・子どもの頃憧れていた職業について話し合う。国によって憧れる仕事が変わったら、どうしてその仕事をしたいと思うかなど掘り下げて聞いてみる。

参 日本の中学生の憧れの職業ランキング（2009年ベネッセ調べ）
高校生の場合男子が教師・公務員・医師、女子が保育士、教師、看護師が上位にランクインしている。

活動3

- ・電話で面接の日取りを決める。その際の電話のかけ方を練習する。ここでは、「履歴書ですね」や「4時ですね」など、相手に言われた大切なことを復唱して確かめるということに留意して練習するとよい。

活動4

- ・活動2で話したことをもとに、実際に面接に行くシミュレーションをするとよい。
- ・面接に臨む際に留意することを話し合う。第一印象が大事なので、服装や髪形にも気をつけなければならない。また、座り方やおじぎの仕方などもどうすればよいか実際にやってみるとよい。

参 接客業では、派手なメイクや染髪、ピアス、マニキュア（ネイルアート）などが禁止されている場合がある。

- ・面接の際は筆記用具や印鑑など記録や契約に必要なものを持って行く。
- ・ボランティアが面接官になって面接の練習をする。まず、どう答えるか考えてから、実際に実演してみる。その際は声の調子や態度なども印象よくできているかチェックする。

面接の質問例

- ・この仕事をしたいと思った理由はなんですか。
- ・この仕事の経験がありますか。
- ・いつから働けますか。希望の時間や曜日があれば教えてください。など

参 面接時は責任者の対応や職場の雰囲気を観察しておき、働きやすい職場かどうか見ておくこともアドバイスする。

求人広告

- 発**
- ・レベルの高い学習者がいる場合は実際の求人広告を見ながら、吹田近郊の求人状況を見してみるのもよい。（時給の相場や求人の多い職種など）
 - ・実際に職探しの経験がある人がいたら、その方法や苦労したことなども話してもらう。

履歴書サンプル

- 参**
- ・履歴書には必ず証明写真を添付する。サイズが決まっていることや、写真を撮る際に注意することを確認する。日本では正面を向いた写真であることが絶対条件だが、国によっては斜めを向いて写す場合もある。表情の作り方や服装など気をつけることを話し合う。
 - ・証明写真は駅やコンビニの前などに設置された撮影機で手軽に撮れることを紹介する。

冬－9 漢字の話

＊このユニットは、学習者を、漢字圏、非漢字圏のグループに分けて行ってください。学習者の自己申告でかまいません。

漢は、漢字圏のグループのみ行う活動です。**漢**を表示の上、**活動1・4**については**ゴシック体**で示してあります。

1. 活動の目的

- ①表意文字としての漢字について知り、楽しむ。
- ②ひらがな・カタカナと漢字のつながりを知る。
- ③自分の住所が漢字で書けるようになる。

2. 準備するもの（☆は教材ファイルにあるもの）

☆絵からできた漢字

☆今年の漢字（ボランティア用）

3. 活動の手順 **留**：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

- ・漢字と、元の絵とのつながりを理解してもらう。
- ・それぞれの漢字の読み方を教える。
漢 複数の読み方がある漢字は、言葉の例と共に、それも教える。

活動2

絵からできた漢字

- ・漢字と漢字の組み合わせでできた言葉の意味を考える。
留 「花」はここまでの活動で出てこないの、資料「☆絵からできた漢字」を見て意味を理解してもらう。
参 「草」が「化」変化して花が咲く、の絵

活動3

- ・漢字と漢字の組み合わせでできた漢字の意味を考える。

活動4

- ・自分の住所を漢字で書いてみる。ボランティアは手助けする。住所を明かしたくない学習者には、番地を書かなくてもいいと伝える。または、SIFA の住所を枠の中に書いてもらう。（吹田市津雲台1-2-1-6F）
留 住所を書く順は 都道府県→市町村→（ ）→番地
留 書き順や細かい形などに固執しすぎないこと。
漢 できるだけ正しい形で丁寧に書くように言う。
- ・ここでは、南千里の周辺について、地名から、坂（高台）が多い、昔竹林だった、桃がたくさん作られていた、ことなどが想像できて、話し合えればよい。
漢 「南」千里 →東西南北、「千」里山 →漢数字 を確認してもよい。

活動5

- ・右と左の項目を線でつなぐ。ひらがなやカタカナは、漢字が中国から日本へ来た後に作られた文字であることにきづかせ、漢字との共通点などを見つけてもらう。

活動6

漢のみ

今年の漢字

参 カタカナは漢字の「部分」から作られ、ひらがなは漢字「全体」を書きくずしたもののから作られた。

漢 「今年の漢字」について知っているかどうか聞く。知らなければ簡単に説明する。知っている学習者に説明させてもよい。

参 日本漢字能力検定協会が全国から公募して一番票が多かった漢字が「今年の漢字」となる。11月1日ごろから一般公募が始まり、同年12月12日前後に清水寺で発表される。

参 中国、台湾、シンガポール、マレーシアなどにも、その年の漢字を選ぶ催しがある。

- ・2014年の漢字「税」について話し合う。読み方と意味を確認してから、どうして選ばれたか、どんな年だったのか、考えて話してもらう。ボランティアはその年の主な出来事を必要に応じて情報提供する。

発 これまでの「今年の漢字」からわかりやすいものを選んで、同様に話し合ってみる。「震」「金」などがわかりやすい。

留 難しいものは選ばないようにする。説明に終始せず学習者に話してもらうようにする。正解はないので自由に話してもらうようにする。

- ・「私の漢字」お題で漢字を選んでもらう。発表し、理由を説明してもらう。日本の漢字から選ぶ。

活動7

漢のみ

(テキスト
に記載なし)

漢 発 (時間があれば…)

- ・日本の漢字と自国の漢字で同じでないものを取り上げ、違いを理解し正しく書けるようにする。
- ・まず、学習者が違うと認識している漢字をあげてもらい、書いてもらってから訂正する。
- ・そのほかの違う漢字をボランティアの方からあげ、書いて訂正する。

(例) ※中国の簡体字

華/华 愛/爱 強/强 変化/变化 車/车 東/东 鳥/鸟 馬/马 広/广 楽/乐 遅/迟 運動/运动 劉/刘 孫/孙 認識/认识 興/兴 個/个 場所/场所 電気/电气 書/书 漢/汉 遠/远 飲/饮 時間/时间 雑誌/杂志 飛/飞 髪/发 過/过 豊/丰 風/风 様/样 葉/叶 陽/阳 帰/归 術/术 頭/头 難/难 無/无 薬/药 機/机 産業/产业 権/权 売買/买卖 着/着 毎/毎